



邨招良
肅抄輯
登高自卑

三

1
3273
3





登高自卑下水

○舍密畧説

凡テ一物ヲ分シテ種々ハ物トナシ又種々ノ物ヲ
 聚合シテ一物ト成スラ舍密術トモ分シ術トモ云ク
 ナリテ諭ハ平日用フル食鹽ハ鹽酸ト曹達トノ二物ニ
 分シテスベク其鹽酸ヲ分シスレバ格羅兒ト酸素トノ
 二元素ト爲ル又鎮銻ヲ分シスレバ亜鉛ト銅トノ二
 物ト成リ再ビ銅十分ト亜鉛三分トヲ鑄和スレバ又
 原ノ鎮銻トナル又朱ヲ分シスレバ硫黄ト水銀トノ

静岡村招良齋抄輯



3273
卷 3

3273
卷 3

四八
廿七
九十

大平匠
半匠

二物ニ分リ、硫黄十六分、水銀百分ヲ熔合スレハ、再ビ
 原ノ朱トナル如ク、天地ノ間ニ在ル万物、皆種々ナル
 物質ノ相聚リテ其形ヲ成ス者ナリ、其形ヲ成ス原ノ
 物質ヲ元素トモ、原質トモ云フ、其上ハ何ホド分拆ス
 レバ復ニ二物トハ分レザル者ナリ、是其質純粹ニシテ、
 混合物トハキユエナリ、金、銀、銅、鉄及ビ諸瓦斯ノ如キ是
 ナリ、水ハ中古マデハ一種ノ元素ト爲セドモ、舍密術
 起ルニ及テ之ヲ分拆シテ、水素ト酸素トノ聚合物ナ
 ルヲ知ル、今現ニ水素ト酸素トヲ機關ヲ用テ親合
 サスレバ水ト成ルナリ、火モ亦昔ハ一種ノ元素ナリ

ト數ヘ来レバ之ヲ分拆スレバ、酸素、水素、光素、温素ト
 ノ四元素ト爲ルナリ、偕其形アル金、銀、銅、鉄ヨリ形ナ
 キ水素、酸素等ノ元素ヲ數フレバ、當今其數六十四種
 アリ、此六十四種ノ元素、彼此ト種々ニ聚合親和シテ、
 万ノ物トハ成ルナリ、
 ○舍密上ニ於テ諸般ノ元素ヲ二種ニ區別ス、金属、非
 金属是ナリ、蓋シ此區別ヲ設ル所以ハ、其物ヨク電氣
 並ニ温氣ヲ引攝スルト、否立ザルトニ基ケリ、凡テ金
 属タル者ハ、熔化物、鍛鍊物ニ論ナク、必ズ速ニ電氣、温
 氣ヲ引攝ス、故ニ之ヲ電氣善導物ト云ヒ、非金属タル

登高自下本

者ハ電氣。温氣ヲ引攝セス、故ニ之ヲ電氣不導物ト云
 フ、又金屬ハ不透明ニシテ、一種ノ光澤ヲ具シ、非金屬
 ハ光澤アルコトナシ、然レモ亦其則ニ準ゼザル者アリ、
 瑜バ砒石ハ舍密上ニ於テハ、其性非金屬ノ燐素ト同
 ケレモ、彼亦金屬ノ光澤ヲ具セリ、又炭素ハ固ヨリ鑛
 澤並ニ電氣ヲ攝スル等ノ性ナシ、然レモ石筆炭素ヨ
 者ナノ如キニ至テハ、金屬ノ性ヲ存ジテ光澤アリ、又
 盛熾セル木炭ハ、電氣ヲヨク攝導スル、金屬ノ性質ヲ
 具存ス、其六十四元素ノ標目ハ左ニ列スル如シ、其
 元名ノ下ニ數字ヲ記セルハ、親和平衡量ト名クル者

沃陳	加爾勃尼究母	勃留母	尼多羅厄紐母	其非金屬ニ算スル者ハ	爲セシ者ナリ、	字ヲ記スル者ノ、元名ノ字ヲ省畧シテ、元素ノ符號ト	然タル定量ノ數アルヲ示ス、其數ヲ起ス基ハ水素ヲ	ニシテ、則チ異類ノ元素互ニ相親和スルニハ、必ズ整
海藍	炭素	砒精	窒素					
I	O	B	N					
二七〇	六〇	一一〇	一四〇					
悉里叟母	亞爾攝尼究母	阿幾舍厄紐母	波斯波律斯					
玻精	砒石	酸素	燐					
Si	As	O	Ph					
一四二	七五〇	八〇	三三〇					

布刺知紐母 白金	勿爾律母 鐵	滿尾涅叟母	* 攪爾弗刺密烏母	* 朗答紐母	* 且答律母	加爾叟母 石精	阿斯繆母	利知烏母	實々密烏母
Pt	Er	Mn	W	La	Ta	Ca	Os	Li	Di
九八五	二八〇	二七六	九二〇	四七〇	九三〇	二〇〇	九九五	七〇	四八〇
布綸爸母 銘	* 華那胃母	麻倔涅叟母 苦土精	* 納律母	* 烏刺紐母	* 那篤留母 一名曹叟 醃精	* 加度密烏母	加留母 一名刺篤叟母 灰精	* 律酌紐母	* 知且紐母
Pb	V	Ms	No	U	Na	Cd	K	Ru	Ti
一〇三五	六八七	一二〇	未詳	五九五	二三〇	五六〇	三九〇	五二〇	二五〇

度那留母	百魯彪母	尼阿彪母	拔留母 重土精	意大利胃母	其金屬二算スル者ハ	格羅兒 一名密里亞鹽氣 知究母	蒲羅密烏母	弗律阿留母 一名弗多留
Do	Pe	Nb	Ba	Ir		Cl	Pr	El
未詳	未詳	四八八	六八五	九八五		三五五	八〇〇	一六〇
* 多留母	別利爾留母 一名貝律惹 紐母甘土精	暱古律母	巴爾刺胃母	* 羅胃母		攝列紐母	喜度羅厄紐母 水素	須爾扶爾 硫黃
Th	Be	Ni	Pd	Rh		Se	H	S
五九六	七〇	二九〇	五三〇	五二〇		四〇〇	一〇	一六〇

登高自早下本

四

登高自早下本

三

攝 儂 母	莫 利 貌 埤 紐 母 水 鉛 精	喜 度 刺 爾 義 儂 母 頤	精 究 母 亞 鉛	究 布 律 母 銅	亞 爾 健 去 母 銀	亞 里 胃 母	的 爾 律 儂 母	越 爾 彪 母	箇 拔 爾 去 母
Ce	Mo	Hg	Zn	Cu	Ag	Ar	Te	I	Co
四 七 三	四 六 〇	〇 〇 〇	三 五 〇	三 一 七	〇 八 〇	未 詳	六 四 〇	五 六 三	三 〇 〇
斯 丹 紐 母 錫	斯 多 論 胃 母	私 知 彪 母 一名安質沒粗	比 斯 繆 去 母 蒼 鉛	*悉 爾 箇 紐 母	浩 律 母 黃 金	安 律 密 紐 母 礬 精	*的 叟 彪 母	*依 多 儂 母	格 魯 密 烏 母
Sn	St	Sb	Bi	Zr	Au	Al	Tb	Y	Cr
五 九 〇	四 四 〇	三 〇 〇	二 〇 八 〇	三 三 五	六 七 〇	一 三 七	一 〇 二	三 三 〇	二 六 〇

*符ヲ冒スル者ハ天成罕ニ有ル者ニ係ル
 ○諸元素ハミナ互ニ相親合スルカト相排斥スル性
 トヲ具存スルエニ又之ヲ電氣消極物ト電氣積極
 物トノ二種ニ區別セリ格羅兒及ヒ之ヲ自家性中ニ
 含有セル諸物ハミナ甲ニ屬シ諸金刺篤叟母曹胃母
 等ハミナ乙ニ屬セリ凡テ諸元素聚合セル諸物ハ一
 個電氣ノ作用ニ遭ヘハ必ズ各元素ミナ其自己ノ原
 質ニ分解ス而シテバセレンハ電氣消極ニ分解サ
 レテ其積極ト互ニ親和スル工是ヲ電氣積極物ト
 名ケコロレレンハ其積極ニ分解サレテ消極ト親

和スルユエ、是ヲ電氣消極物ト名ク、然レモ又甲物ニ
 對シテハ積極ナル者、乙物ニ對シテ却テ消極ト成ル
 者アリ、爾ハ硫黄ハモト消極物ナル者ナレモ、酸素ニ
 對シテハ積極物トナルガ如シ、硫黄ト酸素トノ混合
 物ヲ分拆スルニ、其硫黄ハ必ズ電氣ノ消極ニ因テ分
 拆セラルレバナリ、

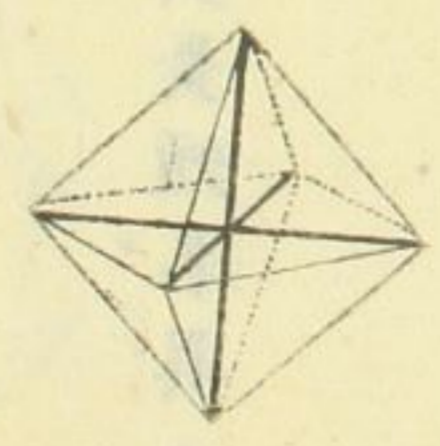
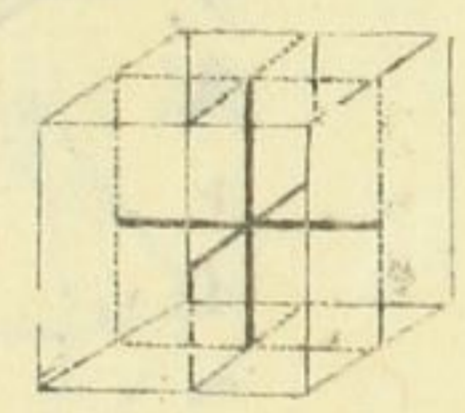
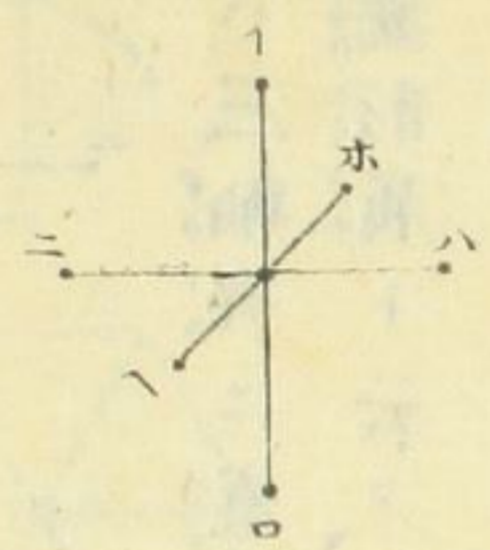
○金銀銅鉄ノ如キハ、其同質ハ分子相聚會シテ成シ
 者ナリ、故ニ是等ノ者ヲ單純物ト云フ、食鹽ハ鹽氣ト
 鹼精トノ二元素ヨリ成者ナリ、食鹽ノ分子ハ細析レ
 テ、復分ツ可カラザルニ至ル者トイヘモ、其一分子猶

ホニ元素精ナリ、鹽氣ト鹼ノ異質分子ヲ合セタル者ナリ、故
 ニ是ヲ混合物ト云フ、既ニ其質ヲ異ニスレバ、金銀ノ
 分子ト、食鹽ノ分子ト、其名ヲ同スルヲ得ズ、由テ
 金銀ノ分子ヲ極微分子ト云ヒ、食鹽ノ分子ヲ細小分
 子ト云フ、共ニ極テ微小ナル者ニシテ、器械ノ以テ能
 ク分拆スベキ者ニ非ズ、唯學問上ニ於テ之ガ名ヲ命
 ジ、彼此ヲ區別スルノミ、蓋シ凝流氣三體ノ物品總テ
 ミナ此極微分子ノ相聚會湊合レテ、其形質ヲ成セ
 者ナリ、而シテ流體氣體ハ固ヨリ其定形ナシトイヘ
 モ、凝體ニ至リテハ、其分子凝聚シテ、各般ノ形質ヲ成

スニ、必ず整然タル範則アリテ結合スル者ナリ、之ヲ
 結晶ト云フ、同性同質ノ物品ハ、天造人工ヲ論セズ、常
 ニ必ず同形ノ晶珠ヲ結ス、則チ食鹽ハ四角六面晶硝
 石ハ八面柱晶膽礬ハ四面柱晶ヲ結ブガ如シ、諸般ノ
 凝固物、ソノ外表ヨリ之ヲ視レバ、其形定範ナク、奇怪
 異状ナレド、顯微鏡ニテ精細ニ之ヲ驗査スレバ、其内
 外ミナ自ラ整々タル定形ヲ具ヘ、種々同形ナル結晶
 物互ニ相湊合堆積セル者ナリ、而シテ結晶ノ珠形、其
 數多シトイハレ、凡之ヲ概シテ六種ニ總括ス、蓋シ其
 ノ位置及ビ長短ニ隨テ之ヲ區別スル者ナリ

其一種ハ圖ノ如ク同長ノ三軸ヨリ成ル、是ヲ端正屬
 ト云フ、(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (一百)

圖七十九第



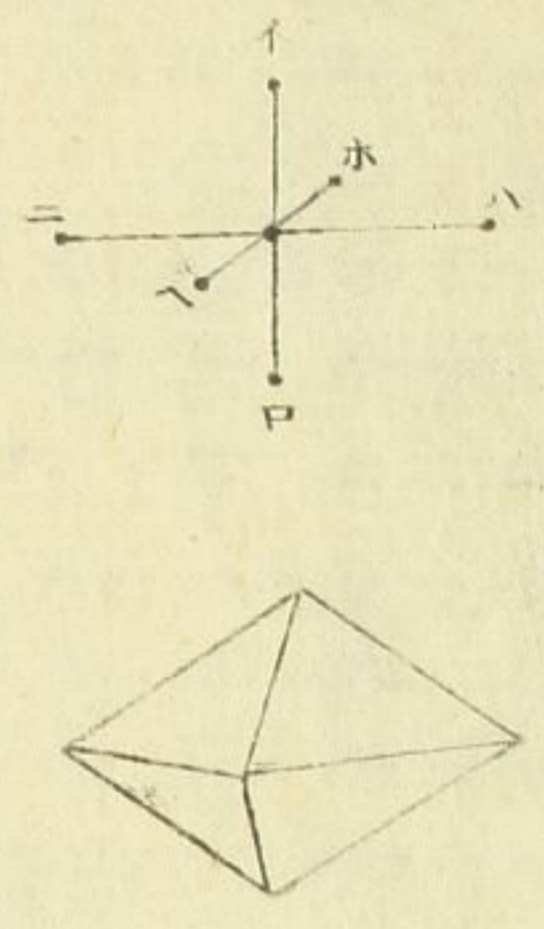
其二種ハ三軸互ニ直角ヲ
 ノレ、各々九十度ヲナス、是
 鏡角以下ノ者ヲ爲シ、副軸共ニ同長ニシテ、要軸長短ア

登島自序下本

七

ル者ナリ、之ヲ方形屬ト云フ、

圖八十九第



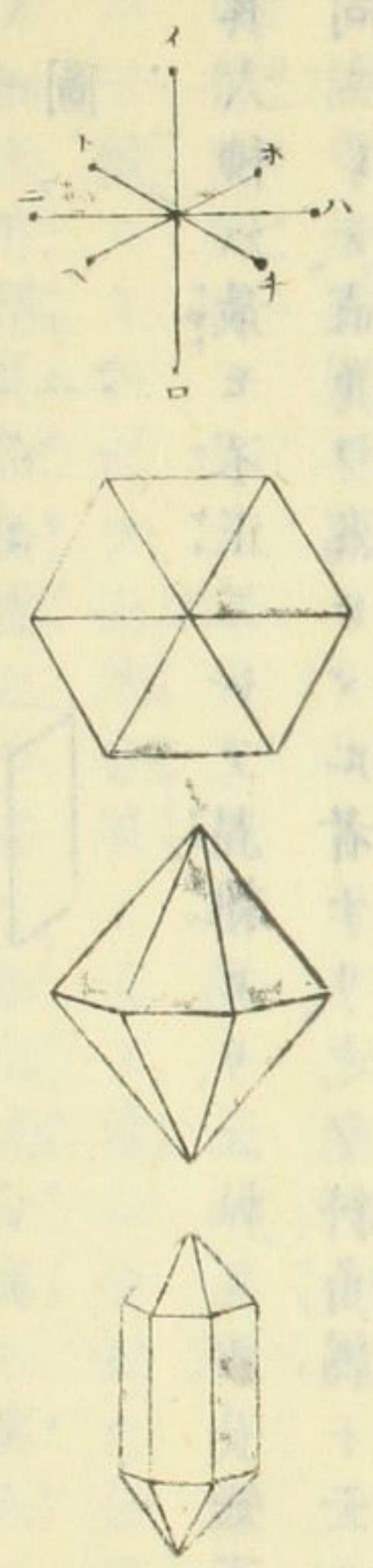
其三種ハ三軸共ニ直角ヲ為トイヘ、其長短各異ナリ之ヲ菱形屬ト云フ、

圖九十九第



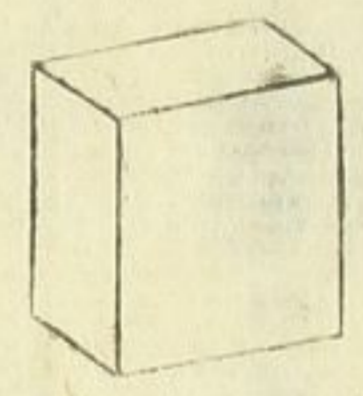
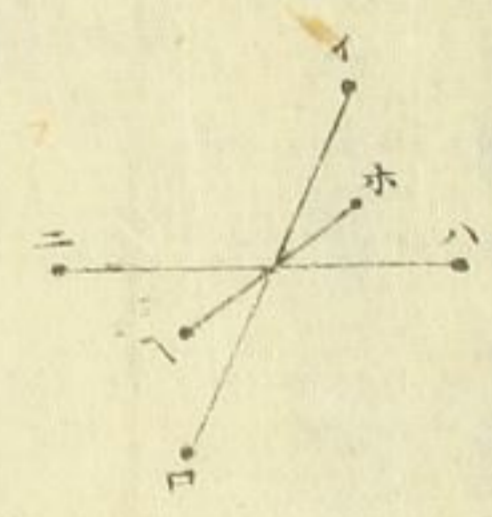
其四種ハ三副一要ヨリ成ル、其副軸各々同長ニシテ、要軸ハ長短アリ、副軸ノ角各六十度ヲ為ス、故ニ之ヲ六角屬ト云フ、

第百圖



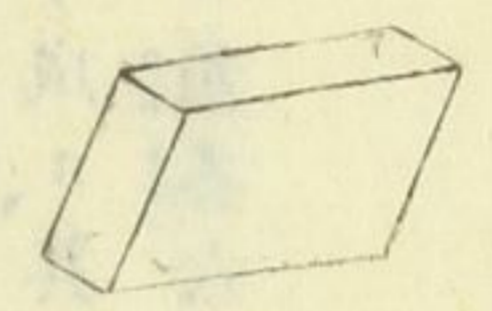
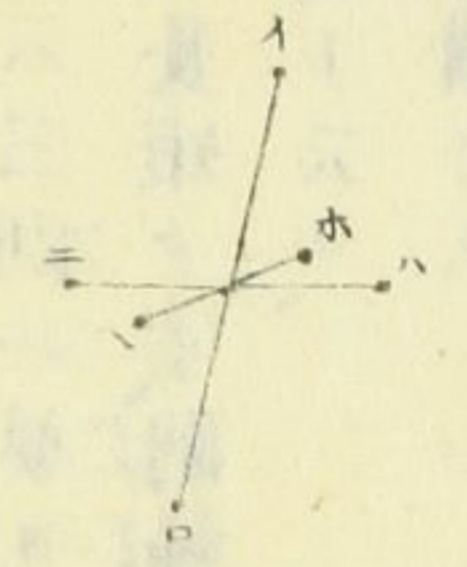
其五種ハ「イ」「ロ」「ハ」「三」「互」ニ銳角ヲ為シ、「ホ」「ハ」「ハ」晶面ト直、角ヲ為ス者ナリ、之ヲ一斜屬ト云フ、

圖一百第



其六種ハ最モ不正ニシテ混雜セリ、三軸ニナ長短不
同ニシテ、直角ヲ為サバ、ル者ナリ、之ヲ斜角屬ト云フ

圖二百第



○諸般ノ漢合物其原素ノ配合ニ隨テ又之ヲ六種ニ
區別ス、則チ弗律阿留母、格羅兒、蒲羅密烏母、次陳等ヨ
リ立成スル者ヲ鹽類ト云ヒ、利知烏母、曹叟母、刺馬叟
母等ヨリ立成スル者ヲ鹵性金屬ト云ヒ、加爾叟母、斯
多論胃母、拔留母等ヨリスル者ヲ土鹵性金屬ト云ヒ、
安律密紐母ノ如キ者ヲ土性金屬ト云ヒ、其餘ノ金屬
ハ一般ニミナ之ヲ山坑金屬ト云フ、蓋シ金、銀、白金等
ノ如キ、所謂貴品金屬ナル者モ、亦山坑金屬ニ算入セ
リ、斯ク諸般ノ物品自然ニ立成スルモ、即チ造化ノ舍
密力ニシテ、各種原質ノ分子互ニ離合聚散シ、其平衡

量ニ準シ親和結成シテ其形質ヲ成スモノナリ
 ○銅ノ鑪屑ト硫黄ノ末トヲ研和混合スレバ肉眼ニ
 テハ之ヲ辨ズルノ能ハザルモ顯微鏡ニテ之ヲ照セ
 バ其銅ト硫黄ノ兩分子歷ヤトシテ辨知スベシ而シ
 テ其混合物ヲ玻璃罐ニテ火ニ煖ムレバ忽ニ一變化
 ヲ起シ其物溶解シテ流體トナリ多量ノ硫黄ヲ蒸發
 シ遂ニ妙合シテ一種ノ新造物ト成ル即チ膽礬ナリ
 已ニ膽礬ト成ルニ至リテハ顯微鏡ヲ用フルトモ其
 分子ヲ辨ズルノ能ハズ其形質トモニ曩ノ銅硫
 黄トハ大ヒニ異ナリ又濕氣中ニ在ル鉄ハ黄褐色ノ

鑄ヲ生シ久シフシテ全體ニナ鑄質ニ變ズ是其鉄濕
 氣中ニ含メル所ノ酸素ト親和シテ一種ノ新造物ヲ
 生ズ即チ鑄ナリコノ硫銅二物ノ膽礬ト成リ鉄ト酸
 素ノ鑄ト成ルハ舍密ノ力ナリ
 ○諸元素親和交感シテ維新ノ物品造成スレバ其原
 ハ性質形態色香モ亦隨テ變ズルモハナリ猶バ酸素
 水素ハモト氣狀ノ物ナレバ相合シテ水トナレバ流
 動ノ狀ニ變ズ金類ハモト固形物ナレバ水素ト合ス
 レバ氣狀ト爲リ鹽氣ハモト氣狀物水銀ハ流動物ナ
 レバ二物合シテ外秉ト成ル等ハ其形ハ變ズルナリ

銅ノ紅色ナルモ、硫酸ニ和スレバ深藍色ノ膽礬トナ
 リ、又青色ノ物ニ酸類ヲ加フレバ紅色トナリ、灰汁ヲ
 和スレバ綠色トナリ、鉄漿ニ五倍子ヲ和スレバ黒色
 トナル等ハ其色ハ變ズルナリ、酸素窒素ハ共ニモト
 味ヒナケレバ、交感シテ消酸トナレバ其味極テ酸烈
 ナリ、水素炭素酸素ノ三物モ蔗糖樹漿ニ於テハ甘味
 トナリ、藕粉葛粉ニ於テハ淡泊トナル等ハ其味ハ變
 ズルナリ、炭素水素相合シテ群花ノ芳香トナリ、窒素
 水素相合シテ鹿角油ノ烈臭ヲ發スル等ハ其香ハ變
 ズルナリ、又硫酸ハ水ニ合シテ温熱ヲ生ジ、銅亜鉛ノ

二金屬交感シテ電氣ヲ發スル等ハ其性ヲ變ズル者
 ナリ、又葡萄酒ノ甘味ナルモ、之ヲ桶中ニ藏メテ温熱
 ヲ與フレバ、汁中ノ炭素氣泡トナリテ上浮ス、其炭素
 已ニ去レハ復甘味アラズ、是其糖質酒精ニ變ズルナ
 リ、既ニ酒精ニ變ズレバ其性質香味亦隨テ大ニ異ナ
 リ、蓋シ草木ノ液汁ニハ糖分ト水分トノミナラス、又
 別ニ糖分ト交感シテ酒精ト成ルベキ一物アリ、之ヲ
 酵ト名ク、酵ハ其質酸水窒ノ三素及ヒ硫黃燐トヨリ
 成ル者ニシテ、蛋白質ト相似タリ、凡テ甘味アル草木
 ノ液汁ニハ多ク此物ヲ含メリ、故ニ醸シテ酒精トナ

スベシ、但蔗糖ハ本来此物ヲ含マザル故ニ醞釀シテ
酒精トナラサルナリ、

○諸元素ノ相交感結合スルハ亦其物質ノ引カニシ
テ舍密術ニ於テハ之ヲ親和カト云フ而シテ其親和
スルニ各物分量ノ多少ヲ言ハズ能ク結合スル者ア
リ、リ、 兪ハ金銀銅等ノ如キハ其量互ニ多少アリトイヘ
ル能ク鎔化シテ一般ノ結合ヲ為スベシ、食鹽ノ水ニ
溶解スルモ亦量ノ多少ニ拘ラズト雖モ百分ノ水ハ
其力四十分以上ノ食鹽ヲ溶解スルヲ能ハズ又各物
親和スルニ定額ノ分量アリテ必ズ其則ヲ違ヘザル

者アリ是ヲ親和平衡量ト謂ス、兪ハ硫黄ト水銀トヲ
研和スレバ唯黒色ノ粉末ト為レドモ其親和平衡量
ヲ照シテ硫黄十六分水銀百分ヲ和レテ之ヲ煖バ銀
朱トナリテ其色赤クナルベシ、若シ其中水銀百十分
アレバ其十分ハ硫黄ト和セスシテ剩残スルモノナ
リ、而シテ又其銀朱中百分ノ水銀ヲ分離還元セシム
ルニハ二十八分ノ鉄ヲ以テ足りトス、又ロドガラ
ニスハ十六分ノ硫黄ト一〇五分ノ銘ヨリ成レリ、
而シテ又之ニ二十八分ノ鉄ヲ煖和スレバ其銘分乃
チ分離ス、是十六分ノ硫黄ニ親和スル鉄ハ二十八分

ニテ適量ナレバナリ、又元素ハ質ニヨリ互ニ親和セ
 ザル者モ他物之ニ加ハレバ忽ニ親和スル者アリ、
 水ト油トハ何ホドニ混合セシムレバ鎮静スレバ二
 物互ニ相分レ、油ハ必ズ水上ニ浮ブ、今其二灰汁ヲ加
 フレバ、三物忽ニ相混和シテ白濁ノ液ト爲ル、是ヲ媒
 妣親和ト云フ、世上ニテ油ニ汚レタル布帛ヲ灰汁ニ
 テ濯グハ、乃チ其布ニ滲タル油ト相合シテ油
 氣脱スレバナリ、又二元素聚合シテ一物ト成シ者ニ
 他ハ二元素聚リテ一物ト成シ者ヲ加フレバ、甲物中
 ハ一元素ハ物中ハ一元素ト各々好ム所ハモハラ擇

テ互ニ交換親和シテ維新ハ二物ヲ造成ス而シテ若
 し其中ニ親和スベキ者トキ一元素アレバ、獨リ自ラ
 游離スル者ナリ、是ヲ擇親和ト謂フ、是各物親和ノカ
 互ニ強弱アルニ由ルナリ、
 合シテ成シ者ナリ、
 ナリ、今此消石ト綠礬トヲ混合シ、
 テ之ヲ燒バ、二物共ニ熔解シ、消石中ノ加里ハ、
 ノ硫酸ト合シテ硫酸加里ト成リ、
 瓶底ニ殘留シ、消石中ノ消酸ハ、
 ヨリ上騰ス、是加里ト消酸トノ親合ハ、加里ト硫酸ト

ノ親合ヨリ其力弱ケレバナリ、
 ○各物ノ分子互ニ交換レ、彼ヲ離レテ此ニ合フ者皆
 必ズ其平衡量ニ準フ、例之ハ銅板ヲ硝酸銀液ニ
 溶解シ中ニ投ズレバ、其銀分分離セラレテ粉末ノ如
 クニ沉澱シ、多少ノ銅分其液中ニ溶解シ、銀ニ代リテ
 消酸ト親和シ、消酸銅ト成ル、而シテ其沉澱セシ銀ト
 又今溶解セシ銅トヲ秤レバ、則チ銀八一〇八ニシテ
 銅八三一七ノ平衡量ナリ乃チ一〇八分ノ銀及ビ三
 一、七分ノ銅、三ナ各八分ノ酸素ト親合シ、酸化銀並ニ
 酸化銅ト成ルヲ知ル、又其消酸銅ノ溶液中ニ加度

密烏母ヲ和スレバ、其銅分ハ分離セラレ、加度密烏母
 其液中ニ溶解シ、銅ニ代リテ消酸ト親和、消酸加度密
 烏母ト成ル、而シテ其量ヲ秤レバ、則チ五六分ノ加度
 密烏母、三一、七分ノ銅ニ代ルヲ知ル、二物乃チ又八
 分ノ酸素ト親合シテ、酸化銅及ヒ酸化加度密烏母ト
 成リシ者ナリ、又其消酸加度密烏母溶液中ニ亜鉛ヲ
 浸セバ、加度密烏母ハ沉澱シ、亜鉛之ニ代リテ溶解ス、
 而シテ其兩物品ノ量ハ、五六ト三二、五ナリ、是乃チ又
 八分ノ酸素ト親和セシ、酸化加度密烏母及ビ酸化亜
 鉛兩金属ノ量ナルヲ知ル、是ニ由テ之ヲ觀レバ一

。分ノ水銀。二八分ノ鉄。三一七分ノ銅。五六分ノ加
度密烏母。三二五分ノ重鉛。一六分ノ硫黃等。三十八分
ノ酸素ト互ニ親和交換スルヲ知リ、且隨テ諸物各
々自家定量即チ所謂親和平衡量アルヲ知ル、
○衆分子湊會集シテ立成スル物品、其各種ノ分子、
皆同一時ニ親和シテ、一物體ヲ造成スルニ非ズ、其衆
分子中ノ兩個ノ分子、先ヅ第一次ニ親和シ、第一次ノ
結合ヲ成ス、然レ此結合ハ、其親和スル度ノ強弱ニヨ
リ、又其分子ノ適ニ相嗜ニ相擇ブニヨリテ、他物ト結
合シ、所謂擇親和結合ヲ成ス者ナリ、擇親和結合ニ因

テ即チ第二次ノ結合立成ス、然レテ此結合又其度ノ
強弱ニ隨テ更ニ他物ト結合シ、再擇親和結合即チ第
三次ノ結合立成ス、此第三次結合ニ於テハ、又他物ト
結合スル勢已ニ衰亡スル者ナリ、而シテ其第一次結
合ハ原質物二個相合スル者ニシテ、即チ酸類ト鹽基
加里。礬土等ノ如キ酸類ト合シテ、トノ如シ、第二次結
合ハ酸類ト鹽基ト合シテ鹽類ト成ル者ヲ云フ、第三
次ノ結合ハ酸類ト鹽類ト合シテ復鹽ト成ル者ヲ云
フ、翁ハ天造人工ノ別ナク、消石ハ第二次結合ニ成リ、
明礬ハ第三次結合ニ成ル者ナリ、左ノ例ヲ照シテ之

ヲ了解スベシ

酸素 安律密紐母 酸素 硫黃 酸素 加留母 酸素 窒素

礬土 硫酸 加里 消酸

硫酸礬土 硫酸加里 消酸加里 即硝石

硫酸礬土加里 即明礬

○天文畧説

天ハ寥廓荒邈タル者ニシテ、際限アルヲナシ、其蒼々
 タル者ハ、空氣ノ色ニシテ、天ノ本色ニ非ズ、空氣ハ此
 地球ヲ包圍レテ、恰モ雞卵中ノ蛋白其蛋黃ヲ包ミタ
 ルガ如ク、地上ヨリ高サ九ソ十七八里ニ充テ、積リテ
 蒼藍色ヲ現ハセシ者ナリ、遠山ノ青キモ亦氣ノ積リ
 タル色ナリ、諸テ其荒邈タル大虚中ニ日月星辰其定
 軌ヲ違ヘズ、晝夜循環シテ四時寒暑ノ節ヲ為セリ、太
 陽ハ温素光素ノ本原ニシテ、其形赫々タル圓體ナリ、
 常ニ天ノ中央ニ在テ動カズ、只自轉ト云テ一所ニ居

登高目界下本

一六

テ自ラ回轉ス、太陽ノ毎日東ヨリ出テ西ニ入ルヲ見
 レバ、吾地球ヲ圓ルガ如クナレバ、其ハ視動ト云テ唯
 目ニ太陽ノ圓ルト視ユルニテ、實ハ我地球ノ自轉ニ
 シテ、一晝夜二十四洋時間ニ、西ヨリ東ヘト一週旋轉
 スルモノナリ、而シテ其自轉スル中、太陽ニ向フ半球
 ハ晝ニシテ、太陽ニ背ク半球ハ夜ナリ、故ニ我邦ノ晝
 ハ對蹠國ノ夜ナリト知ルベシ、斯ク地球ハ迅速ニ自
 轉ストイハレ、吾人地上ニ在テ之ヲ覺ヘザルハ、輪バ
 走舟中ニ在ル人、只岡山樹木ノ行動ヲ見テ、舟ノ行ク
 ラ覺ヘザルガ如シ、地球ハ自轉シツ、太陽ノ周邊ヲ

西ヨリ東ヘト圓リ、一時毎ニ四十七万六千里ヅ、行
 テ、三百六十五日五時五十六分五十七秒ニ、或ハ三百
 五十八秒ト云フ、其軌道ヲ一周ス之ヲ一年ト爲ス、
 ○第百三圖ノ如ク、太陽ヲ圓ル星ハ、此地球ト木星、土
 金星ノ五星、及ビ彗星トモ云フ、天王星、彗星トモ云フナリ、
 其尤モ太陽ニ近キ者ハ、水星、其次ハ金星、次ハ地球、次
 ハ火星、次ハ木星、次ハ土星、次ハ彗星、次ハ彗星ナリ、
 皆其大小同シカラズ、且太陽ノ周邊ヲ圓ルニ、各常度
 ノ軌道アリ、茲ニ其畧表ヲ示ス、

登高月車下本

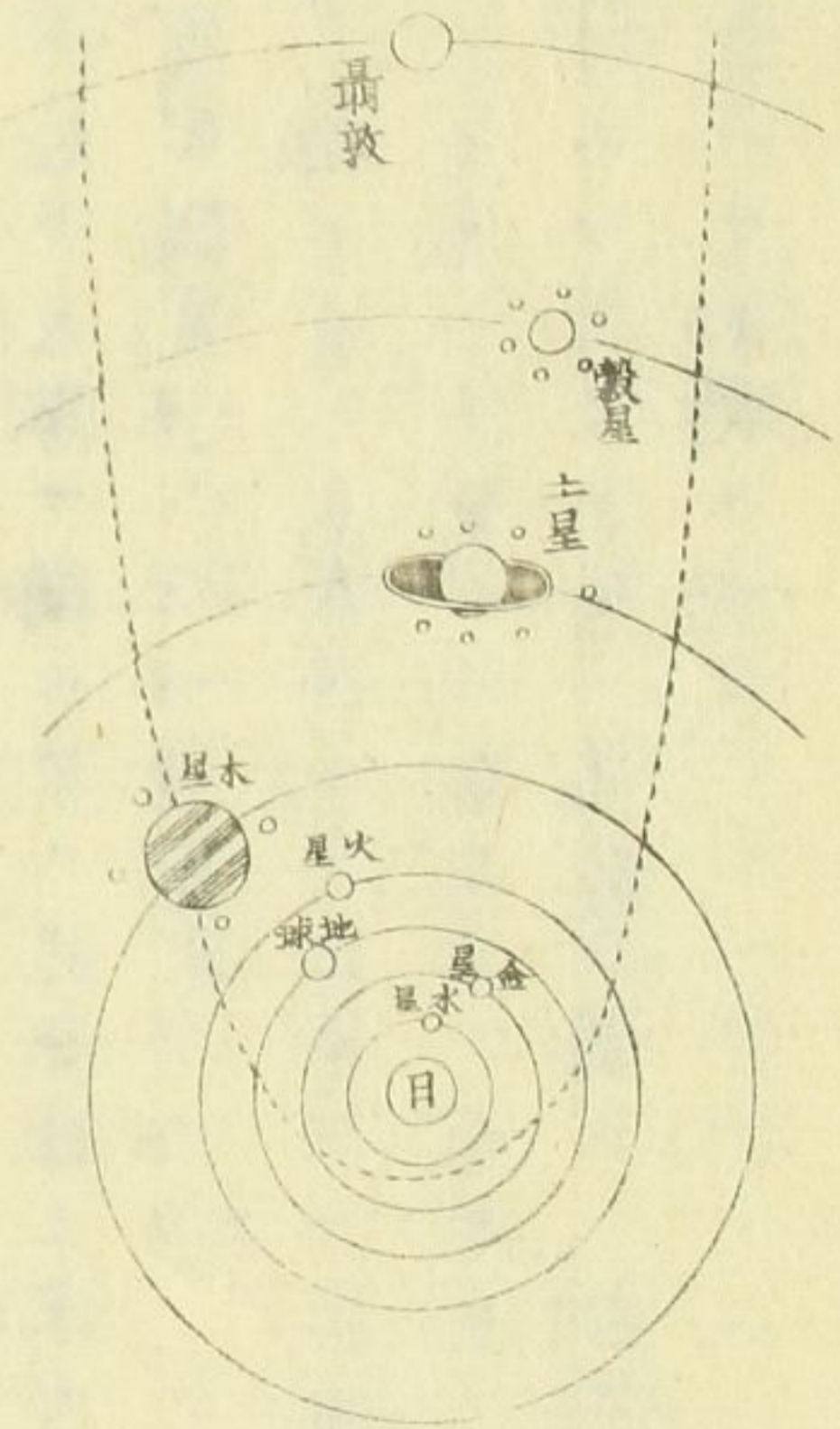
十一

星火	球地	星金	星水
千六百八十六里	三千二百四十三里	三千二百七十里	千二百六十四里七
二十四億九千九百三十七萬八千個	百七十七萬個	百七十一萬五千九百二十個	六千二百〇九個
五十九萬九千六百三十三日	三十八萬九千九百九十九日	二十八萬四千四百六十七日	九萬五千九百八十八日
一年及三十二日	一年	五百二十日	八十八日
星海王	星天王	星土	星木
一萬四千七百三十三里	一萬四千五百五十五里	三萬〇四百八十四里	三萬六千三百二十一里
一億六千六百六十七萬三千八百六十七個	十八萬八千七百七十個	十一萬九千七百七十二個	十一萬九千七百七十二個
六萬八千二百六十七日	七萬九千九百九十九日	三萬八千七百七十二日	三萬八千七百七十二日
二百六十四日	六日	六日	六日

圖三百第

星名中徑實積
距離太陽
運圍ル公

星名中徑實積
距離太陽
運圍ル公



會高自車下本

右ノ諸星ハ、皆太陽ノ光ヲ受ケ、太陽ニ隨テ運轉スル者ナリ、互ニ引カ、張カアリテ、相牽引排擯スレバ、太陽ノ引カニ及バズシテ、皆遂ニ此ガ爲ニ引攝セララル、又太陽ノ張カニテ、其相接觸スルヲ節制シ、諸游星ヲシテ、適度ノ定位ニ於テ運轉セシム、太陽ニ隨テ運轉スル諸星ハ、游星トモ行星トモ云フ、其餘毎夜太陽ニ現ハル、諸星ハ、皆太陽ト同ジキ者ニシテ、之ヲ恒星ト稱ス、經星ト云フナリ、

○太陽ハ、恒星ハ一二シテ地球ヨリ大ナルト一百三十万倍ナリ、常ニ天ハ中央ニアリテ、光ヲ發シ、温ヲ起

シテ諸游星ヲ照ラズ、速ク地球ヲ距ルト、三千餘万里ニシテ、彈丸ノ常速ヲ以テ、二十五年ヲ經ザレバ、達セズ、然レバ、其光線ノ米射スルハ、僅ニ十八分時或云十四分時ニシテ、我地上ニ届ル、太陽ハ自轉トテ、二十五日四洋時間ニ、一回自ラ回轉スル者ナリ、太陽中ニ黒點ノ見ユルハ、小星ノ近ク太陽ノ周邊ヲ圍ルモノナリ、

○日月五星ヲ除キ、毎夜大空ニ現ハル、星ヲ恒星ト云フ、所謂二十八宿、北斗星、牽牛、織女等種々ノ名目アル者、是ナリ、皆太陽ハ、如ク一所ニ在テ、動かズ、光ヲ發スル者トシ、其距離甚ク遠シ、タルユ、其光赫々タ

登高自下本

十一

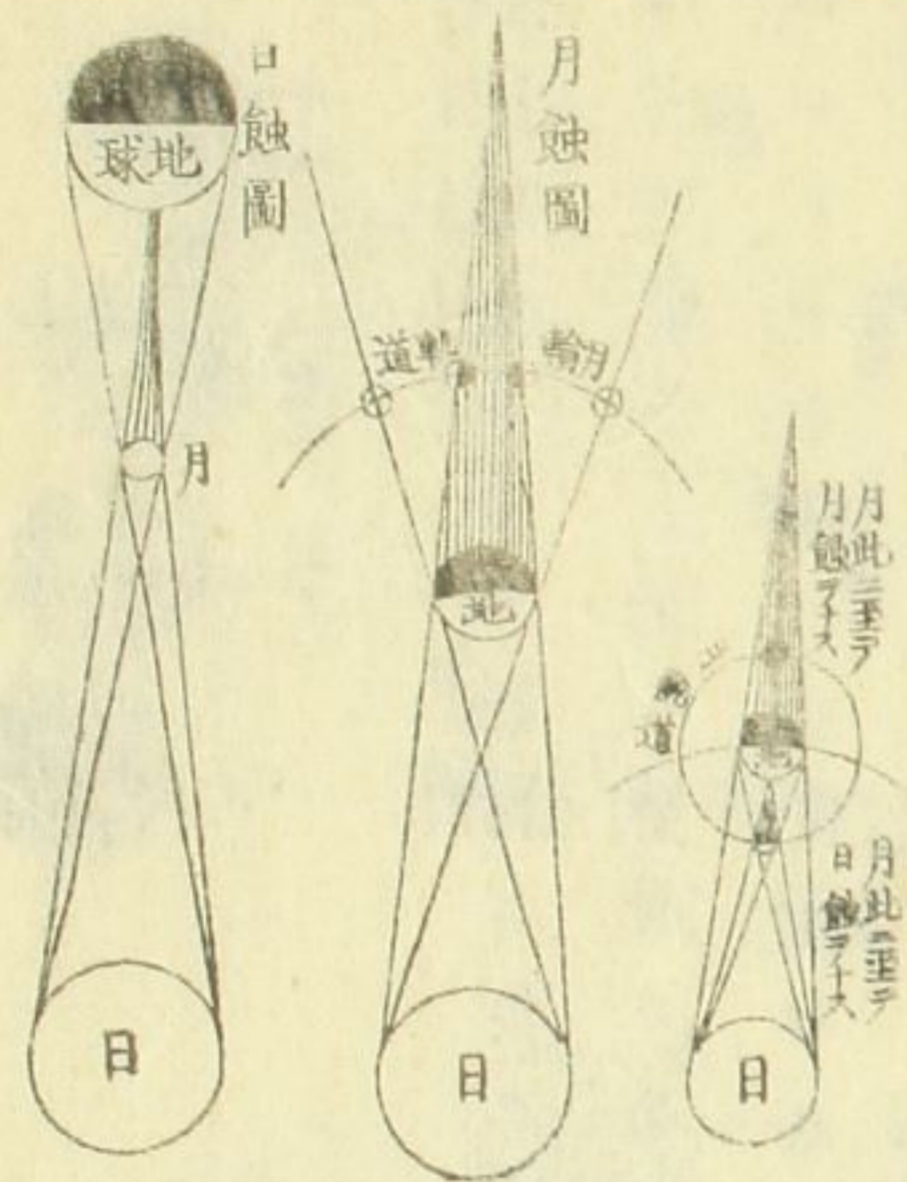
ラガルナリ恒星ノ尤モ地球ニ近キ者ヲ測ルニ彈丸ノ速カニテ七百万年ヲ歴テ初テ其星ニ達スベシト云ヘリ又五星ノ太陽ニ属スル如ク恒星ニ於テモ亦其二属スル游星有ベケレ其遠キヲ以テ望遠鏡ニテモ見エザルナリ天ノ浩大ナル實ニ驚クニ堪タリ諸恒星ヲ總テ之ヲ七等ニ分ツ其光多クシテ且大ナル者ヲ一等トナス其數凡ソ十七八星アリ第二等ハ凡ソ五十餘星第三等ハ二百星四等ハ五百星五等ハ五千星六等七等ニ至リテハ其數測リ知ルベカラズ銀河ナル者モ亦千万無數ノ小星聚會ヒルモノナリ

○月ハ衛星トテ地球ニ属スル一ノ小星ニシテ亦地球ノ如ク一個ハ世界ナリ其中徑八百八十三里周圍二千七百餘里地球ヲ距ル一十九万七千六百餘里ナリ二十八日八洋時間ニシテ地球ヲ一周シ又同日數ヲ以テ自轉シ且地球ト共ニ太陽ノ周邊ヲ公運ス望遠鏡ニテ之ヲ窺ヘバ月界ニモ亦高山深谷火山等アルヲ見ル月ハ原ト光體ニアラス其光アルハ太陽ノ光ヲ受テ反射スル者ナリ上弦下弦ノ半輪黒キ所ハ太陽ニ背キテ太陽ノ光ヲ受ザル所ナリ晦朔月ノ暗キ時若シ月界ニ在テ我地球ヲ望マバ猶我ヨリ彼ノ滿

望遠鏡

七

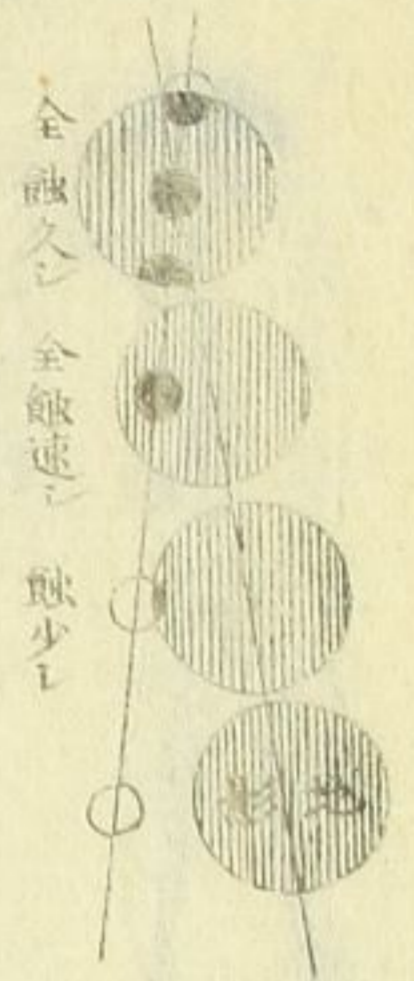
第四百圖



ヲ解ニ遅速アル者八月輪地球ニ蔽ハル、下深淺アレバナリ第百五圖ヲ見テ其理ヲ了解スベシ

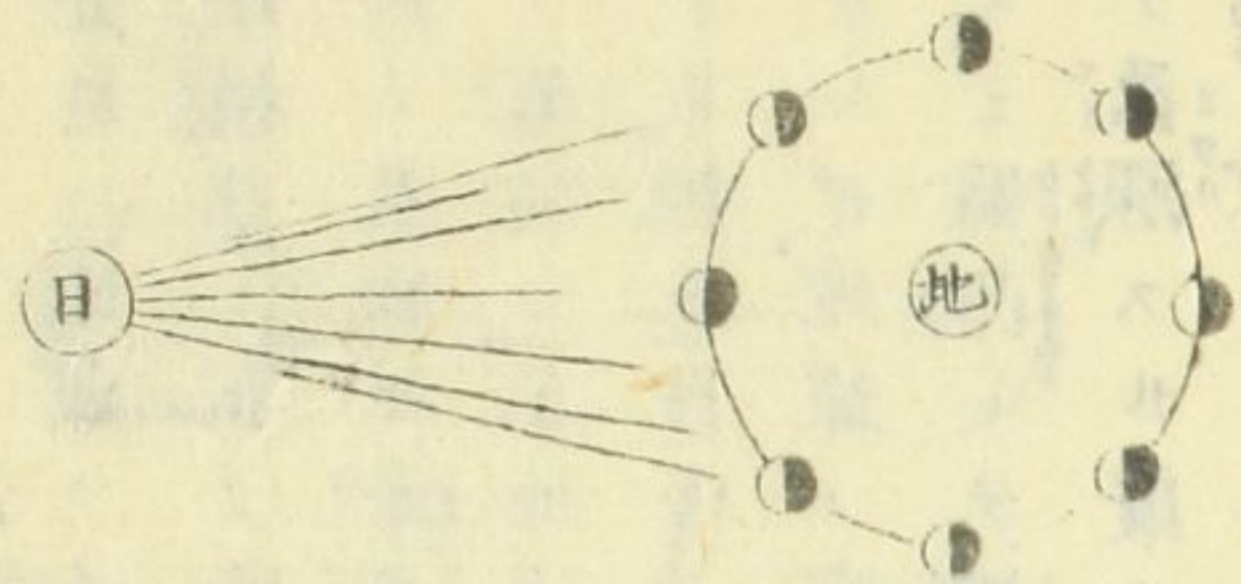
月ヲ見ルガ如クナルベシ、但シ月ヨリ大ナルヲ十四倍ナルベシ、月ノ斯ク地球ヲ圍ルハ地球ト月トノ引カニ因ル、猶太陽ト地球トニ於ル如シ、
 ○日蝕ハ第百四圖ノ如ク、日月相重リテ、月輪太陽ヲ蔽フエ、太陽ノ光線直ニ地球ヲ射ル、可能ハザレバナリ、又月蝕ハ日月相對シ、地球其中間ニ在リテ、月ニ映ズベキ日光ヲ遮レバナリ、故ニ日蝕ハ晦朔ニアリテ、月蝕ハ望時ニアリ、月蝕ノ黒キ圓影ハ即チ地球ノ影ナリ、地球日月ノ正中ニ當レバ、月蝕皆盡キ、月太陽ノ正中ニ當レバ、日蝕皆盡ルモノナリ、月蝕皆盡テ蝕

圖五百第

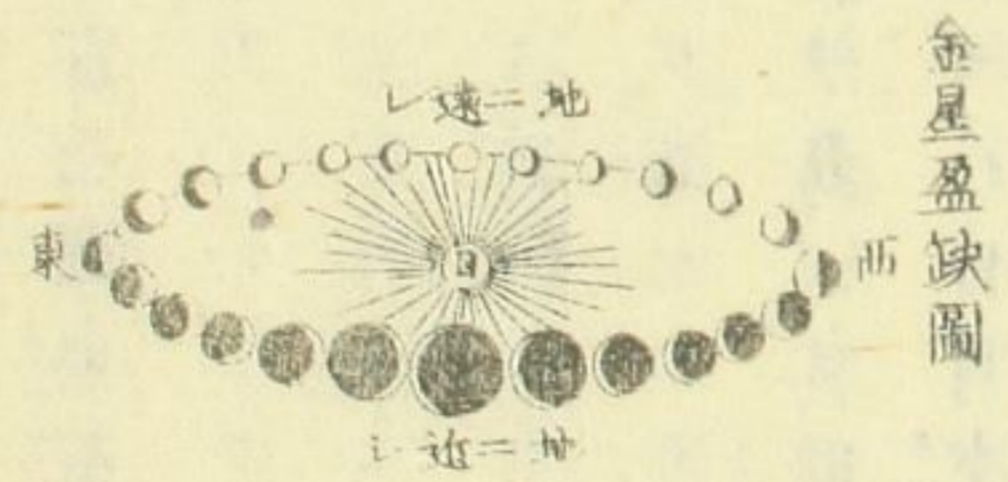


○月ニ朔望盈缺アルハ望時ニ於テ日月相對シ、月輪
 満面ニ日光ヲ受ケル所ヲ地球ヨリ正面ニ之ヲ見ル
 故ニ満月ナリ、上下弦ニハ側面ヨリ之ヲ見ル故ニ半
 月ナリ、晦朔ニハ其日光ヲ受ザル背面ヨリ之ヲ見ル
 故ニ黒月ナリ、三四日比七八日ゴロハ背面ヨリ少シ
 側面ニ之ヲ見ル故ニ纖月ナリ第百六圖ヲ照シテ知

圖六百第



圖七百第



金星盈缺圖

登瀛圖

七二

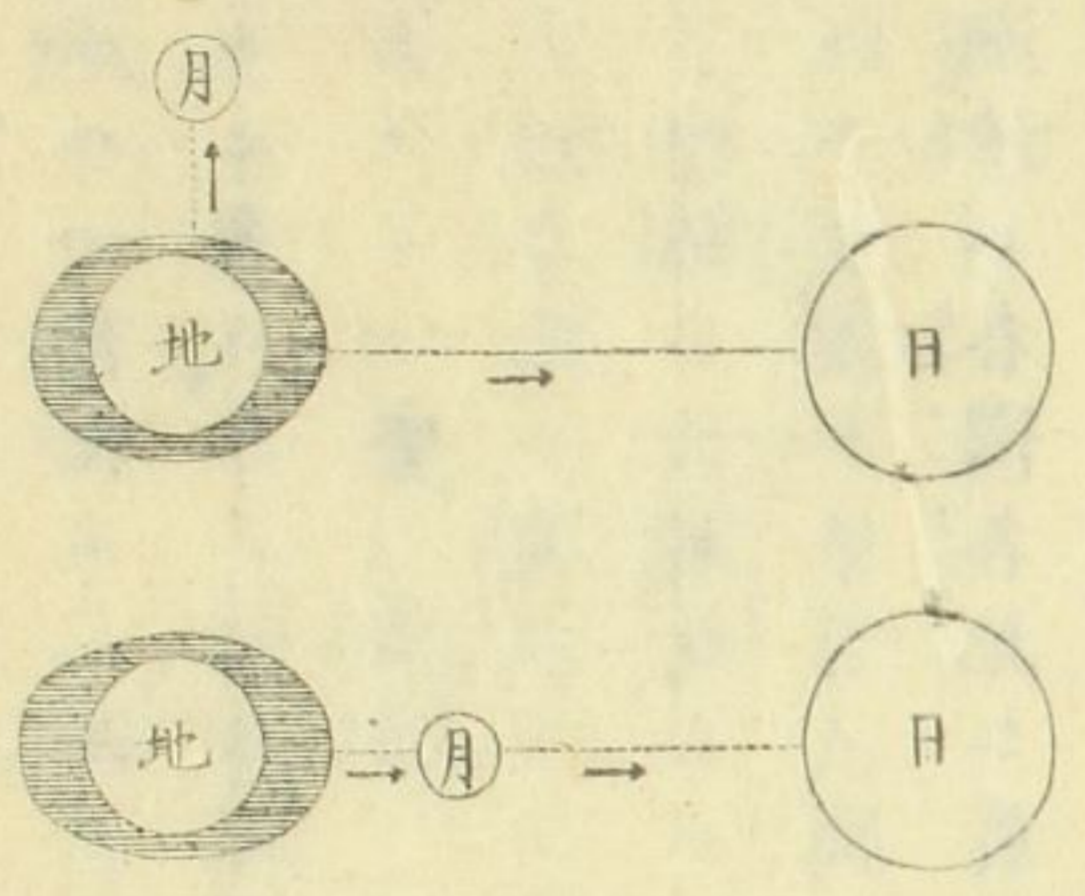
登瀛圖

九一

ルベシ、游星何レモ盈缺スレバ速クシテ見ルベカラズ、但シ金星ハ地球ニ近キユエ、望遠鏡ニテ之ヲ見レバ、其盈缺猶月ノ如ク明ナリ、第七圖金星盈缺ノ形ヲ以テ月ノ盈缺ヲ參考スベシ、

○潮汐ノ盈涸モ亦地球ト日月トノ引カニ由テ生ズルモノナリ、例之月中天ニ来レバ、其引カニテ與ニ偏倚スベケレバ、地球ノ實質ハ堅ク、海水ハ流動スルユエ、海水ノミ偏凸シテ橢圓ノ形ヲ爲ス、其偏凸スル處即チ潮ノ盈漲スル處ナリ、朔望ニハ日月交會スルユエ、日月カラ併セテ海水ヲ引ク、故ニ大汛ト爲リ、上弦

第百八圖



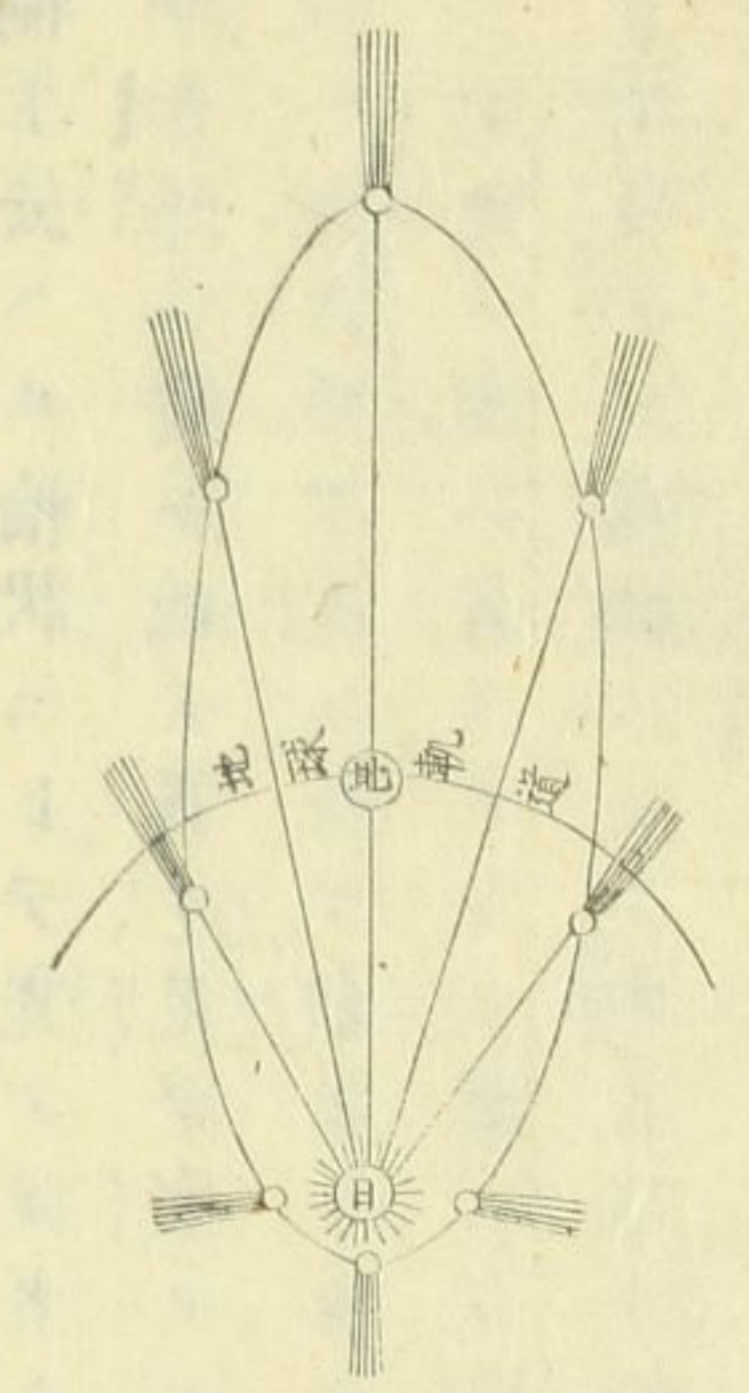
下弦ニハ日月カラ分チテ相引ク、故ニ小潮ト爲、而シテ月ハ地球ニ近キユエ、其引カ十分ナリトシ、日ハ大ナリトイヘバ、地球ニ遠キユエ、其引カ三分ナリトス、朔望ニハ日月カラ併セテ相引ケドモ、上下弦ニハ日月カラ分ツユ

工、太陽ノ引カ三分ヲ減ズ是潮ニ大小アルユエンナ
リ、又潮汐ハ一晝夜ニ二回アリテ、三時ハ來潮ニ三時
ハ退潮スル者、八月ノ引カ地球ノ水ヲ引クニ當リテ、
海水四方ヨリ一處ニ會集スレバ、月ニ背ケル地面ノ
水八月ノ引カ此ニ及バズレテ自然ト残留ス、故ニ地
球ノ上下相對シテ潮長ズルナリ、是一日ニ兩回ノ潮
アル所以ナリ、能ク第百八圖ヲ按ジテ解得スベシ、然
レテ又潮汐ハ各國各地ニ於テ其海ノ方向其地ノ妍
勢ニ隨テ差異アルモノナリ、一例ニ謂ガタシ
○地球ニ屬スル衛星云月ヲハ一個ナリ、木星ニ屬スル

者ハ四個ナリ、穀星ニハ六アリ、土星ニハ七アリテ、又
別ニ光輪ト云ヘル、輪狀ニシテ光アル者之ヲ圍ヘリ、
俱ニ光ヲ太陽ニ受ケテ其主星ヲ照スモノナリ、
○彗星ハ一種異様ノ星ニシテ、游星ノ如ク輪圓ノ蹊
路アリテ、太陽ヲ圍ル者ニアラス、第百九圖ノ如ク其
軌道甚ダ延長ナル楕圓ニシテ、我太陽ト恆星トニ跨
リテ圍ルモノナリ、其形首アリ尾アリ、其尾ノ光莖數
十丈ノ長キ者アリ、古昔星學ノ未ダ開ケザル時代ニ
ハ、彗星ノ現ハル、ヲ以テ、兵革飢饉ノ兆トナシテ、
怖ヒシニ、今ハ推歩大ニ開ケ、其彗星ノ中、四五星ハ已

二何年毎ニ何レノ方位ニ見ユベシト、前知スルニ至
 レリ、其尾々タル尾ハ或曰ク星ノ頭ハ堅實ナル者ナ
 レド、尾ハ輕浮ナル者ニテ、太陽ノ光ヲ受テ光ルナリ

第百九圖



ト、又或曰ク頭モ亦堅キ者ニ非ズ、太陽ノ光ヲ頭ヨリ
 尾マデ透過シテ光ルモノナリト、諸説紛々トシテ未
 ダ確定セズト云ハリ、
 ○風ハ空氣ノ流動スル者ナリ、空氣太陽ノ溫熱ヲ受
 ケ、輕稀トナリテ上騰飛散スレバ、其處ノ空氣隨テ偏
 稀虛乏スルニ至リ、近傍ノ稠厚ナル空氣其處ニ入り來
 ル是風ナリ、猶水ノ低ニ就テ流動スルガ如シ、赤道地
 方ノ空氣ハ、太陽ノ炎威ヲ受ケ、輕稀ニシテ中天ニ上
 騰スル故ニ、近傍ノ空氣其處ヲ補フ爲ニ、常ニ南北ヨ
 リ赤道ニ向テ入來ル、然ルニ地球ハ東ニ向テ自轉ス

登瀛圖

七五

ル者ユエ、空氣ハ自ラ西ヘ向ヒ、南北ヨリ斜ニ西ヘ吹ク風アリ、又風ハ國々山海ノ形勢ニ隨テ異ナル者ナレバ一例ニ謂ガタシ、例之南方ニ海アル國ハ陸地ハ太陽ノ溫氣ヲ引クト海上ヨリ早ク、其空氣速ニ稀薄トナリ上騰スレバ、海上ノ稠厚凜冷ナル空氣、其虛ヲ補フ爲ニ晝間ハ南風アリ、日夕ヨリハ海上ノ空氣稀キ處ヘ、陸ヨリ冷氣ヲ吹キ送ル故ニ北風アリ、北方ニ海アル國ハ之ニ反セリ、陸地ハ晝熱レテ夜冷レク、海上ハ晝涼クレテ夜暖ナルハ、乃チ溫素ノ条ニ謂レ如ク、其表面粗糙ナル者ハ、溫氣ヲ引クト早クレテ、之ヲ

出ストモ亦速カナリ、海上ハ其面瑩滑ナルユエ、溫氣ヲ引クト遅クレテ、出ストモ又遅キニ因ルナリ、
○風ノ強弱遅速ヲ測ルニ、地ヒヲ行ク雲影ヲ以テシ、又翅翼アル車ヲ設ケ、風ノ力ニテ其車ノ回轉スルヲ數ヘテ之ヲ測ル、例之一抄時ニ三尺ヲ吹ク風ハ、僅ニ木末ノ葉ヲ揺スノ力ニテ、之ヲ微風ト云ヒ、一抄時ニ六尺ヲ吹ク涼風ト云ヒ、六十尺ヲ強風ト云ヒ、八九十尺ヲ猛風ト云ヒ、百尺以上ヲ暴風ト云フ、
○旋風ハ風雙方ヨリ吹來リ、輪旋レテ漏斗狀ヲ成シ或ハ雲又之ニ隨テ長管ヲナストアリ、其輪旋スル勢

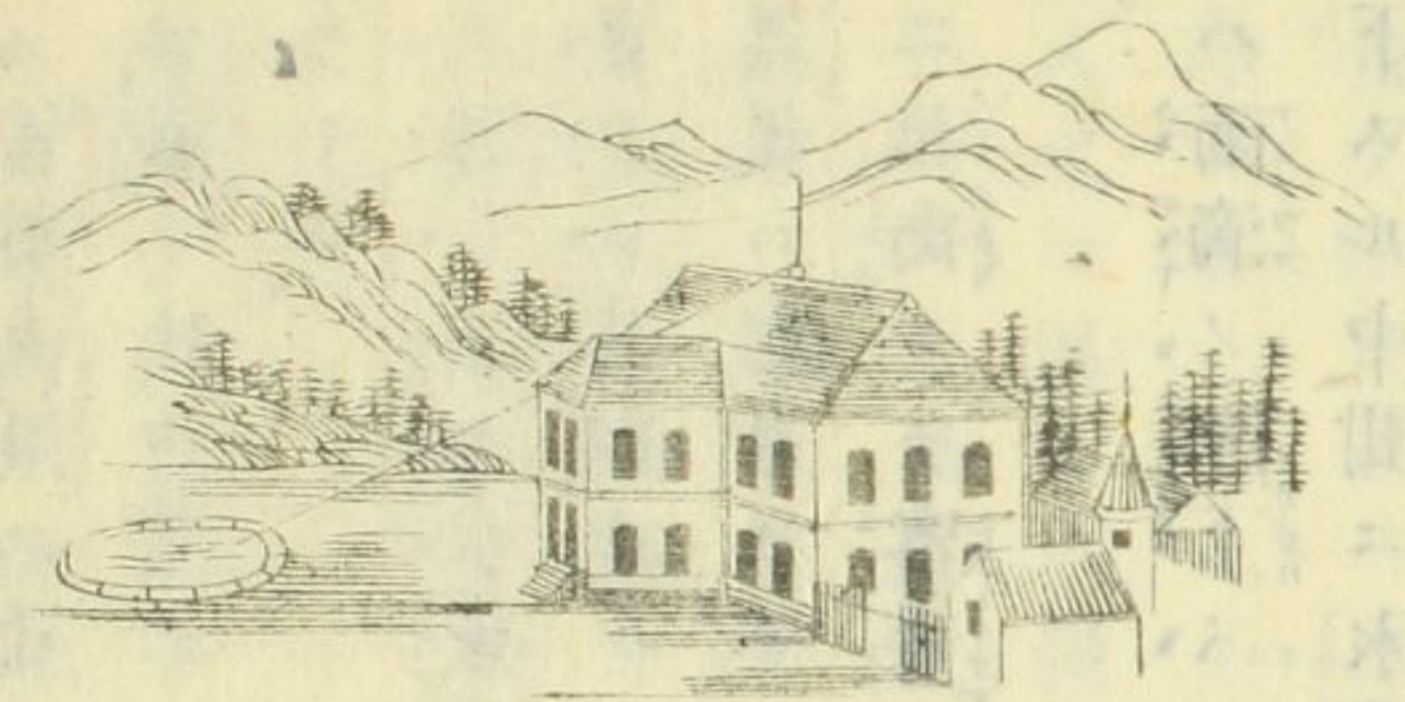
蓬蒿

七

ニテ諸物ヲ空中ニ飄揚シ、又海洋沼湖等ノ水ヲ捲揚
ゲ、雨トナリテ降り魚類之ニ隨テ落ルコトアリ
○雲、水蒸氣ノ彈力強クシテ、其形見エザル者ノ高
ク、冷際エエ之ヲ空氣撤所ハ寒キニ上騰シ、冷氣ノ為ニ其温
ヲ失ヒ自ラ凝聚シテ見ルベキ者ト成シ者ナリ、又温
素越素ヲ含ミ擴張シテ、大氣ノ量ヨリ輕キ片ハ高ク
上騰シ、大氣ト同量ナル處ニ至リテ浮游ス、故ニ大氣
重ケレバ、雲高ク騰リ、輕ケレバ、低ク垂ル、雲高ケレバ
雨アラズ、低ケレバ雨ト為ルハ之ガタメナリ、又大氣
乾温ナレバ、雲ノ分子自ラ融化解揮散シ、中空ニシテ消

ユルコトアリ、又中空ノ雨、地上ニ降ルウチ、大氣ノ乾温
ニ遇ヒ、復タ融化解シ、蒸氣トナリ、散逸シテ見ルベカラ
ザルコトアリ、
○雨ハ水蒸氣ノ雲ト為リテ、冷際ニ騰リシ者、冷氣ノ
為ニ其張力ヲ失ヒ、凝聚シテ、其量大氣ヨリ重クナル
コトエ、水滴ト成リテ降ル者ナリ、冬日雨フレバ、氣候温
暖ナルハ、水蒸氣温素ノ為ニ膨脹セシ者、今聚合レテ
水トナルコトエ、其温素游離シテ、大氣ヲ暖ムレバナリ、
又夏日雨フレバ、清凉ナルハ、大氣ノ上際寒冷ナル處
ヨリ、雨来リテ、地上ノ温氣ヲ奪ヒ、且地上諸物ノ温素

圖十百第



邊ニ迫ヅクヨ勿レ千七
 百五十二年米利堅
 學者雷ハ全ク越歴十
 一ヲ考証シ避震線ヲ
 明セリ其装置ハ第百十
 圖ノ如ク高厦ノ棟上ニ
 長柱ヲ建テ其頂ニ銳
 ナル金屬鐵ヲ接シ夫ヨ
 リ鏈ヲ繫ギ斜ニ曳テ深
 ク地中ニ埋メ或ハ井水

ヲ引テ又蒸散スルニ工地上ノ温氣減ズレバナリ
 ○雷ハ即チ越歴ノ作用ナリ雲越素ヲ合ニテ數層上
 騰シ上際冷氣ノ處ニ至リテ上層ノ雲冷氣ノ爲ニ其
 容縮スレバ合ニテ所ノ越素自ラ漲溢シ不足ノ者
 ト平均セント欲シテ連接セル下層ノ雲ハ越素暴卒
 ニ分賦スルハ火燄ヲ發スル者ハ雷ト云ヒ轟聲ハ發
 スル者ハ雷ト云フ雷電ハモト一閃一聲ノ者ナルニ
 設ケトシテ連轉スルハ其聲山谷及ビ雲層ニ衝抵シ
 テ返響スレバナリ又雷ハ必ズ高塔及ビ喬木等ノ尤
 モ雲ニ迫キ者ヲ撃ツ故ニ雷鳴ノ中ハ樹下若クハ塔

ニ投入ス、雷雲高厦ニ迫ヅクハ、越素其鋭尖ヨリ鏈
ニ隨ヒテ、直ニ地中若クハ水中ニ傳フル故ニ雷震ノ
患ヒナキナリ、

○雪ハ上騰シタル水蒸氣冷際ニテ、其分子凍合シテ結
晶スル者ナリ、其形多クハ六角ナリ、故ニ雪ヲ六出ト
云フ、水蒸氣ハ越素ヲ含ムエ、其凍合スル片ニ當テ、
分子互ニ抵衝シテ密着セズ、故ニ雪ハ輕浮ニシテ鮮
美ナリ

○雹霰ハ雨滴ノ降下スルハ、空中ニテ水結セシ者ナ
リ、其降下スル中間ニ水蒸氣アレバ、又是ニ附着シテ

其雹稜角ヲ生ジ、或ハ巨塊ヲ為ス、
○霧ハ即チ雲ノ地上ニ近接スル者ナリ、高山雲ヲ帶
ルトキ人之ニ遇ヘバ、猶霧ニ異ナラス、秋冬ハ大氣自
ラ寒冷ナルエ、水蒸氣外騰スルト少ク、其蒸氣地面
ニ止リ、朝暁ノ温ヲ得テ濃霧トナリ、忽チ上騰スルト

アリ、又晝間江湖池沼ヨリ上騰スル水蒸氣、日落チ温
減ズレバ、自ラ凝聚シ、濛ヤトシテ霧ト為リ、又水烟ト
為ル、

○露ハ晝間ノ温氣地中ニ残留シ、晩間ヨリ水氣ヲ蒸
發スレバ、大氣之ヲ融化スルト能ハザルエ、乃チ凝

登高自下

世

テ露トナル、故ニ夏秋狼晴ノ晩ハ殊ニ露多シトス。
○霜ハ即チ露ノ氷結セシモノナリ。
○曆法ハ日月星辰ノ行度ヲ測リテ、四時寒暑ノ節ヲ
序ツル所以ノ者ナリ、而シテ三百六十五日五時四十
八分四十八秒ハ、則チ地球ノ太陽ヲ繞ル限刻ニシテ、
之ヲ星家年ノ一年ト爲ス、然レモ其奇零漸積シテ、十
數年ノ後ニ至リテハ、數日ノ差ヒ無キヲ能ハズ、故ニ
潤ヲ置キテ其過不及ヲ折中ス、之ヲ俗家年ノ一年ト
爲ス、而シテ閏ヲ置ノ法、和漢西洋其期ヲ異ニシ、且古
今屢其法ヲ改正ヒリ、西洋ニテ曆法ノ始テ起リシハ、

蓋シ紀元前二千三百年代ニ過ギス、其能ク日月及ビ
五星ノ周度ヲ測リ、日食ノ理ヲ解スルハ、紀元前四百
年代ニアリ、蓋シ其初亞太臘斯及ヒ合爾の越兒私ニ並
人コレヲ埃及人ニ傳ヘ、埃及コレヲ厄魯齊亞ニ傳ヘ
テ、終ニ西洋諸州ニ及ベルナリ、莫トニ於テハ伏羲ノ
時、既ニ曆數少シク關ケ、太撓ト云ヘル者、十干ヲ以テ
日ニ名ケ、十二支ヲ以テ月ニ名ク、蓋シ子月ヲ以テ歲
首ト爲シ、閏月ナク月ニ大小ナシ、帝堯ノ時、西洋ノ紀
年四百ニ至リテ三百五十四日ヲ以テ一年ト爲シ、奇零
ヲ積テ每三年ニ閏月ヲ置キ、閏ハ必ズ一歲ノ終ニ於

登馬月年下本

此

テス、漢ノ張衡ニ至テ、日月ノ運行ニ遲速盈縮アルヲ
 知リ、唐ノ李淳風ヨク曆數ヲ論ジ、僧一行大行曆ヲ
 造リ元ノ郭守敬ニ至リテ、直ニ作曆ノ年ヲ以テ曆原
 ト爲ス、簡便ニシテ其正ヲ得タリト云フベシ、斯ク漢
 土ハ太古ヨリ曆數既ニ闕ケレト雖モ、其學風偏固ナ
 ルユエ、終ニ近世西洋ノ推歩益精キニ及バズ惜哉、漢
 曆ハ古ヨリ太陰年ニシテ、月ノ朔望必ズ月ノ盈缺ニ
 準フ、西洋曆ハ太陽年ニシテ、月ノ運行ヲ兼テ太陽ノ
 運行ニ從フ、故ニ月ノ大小並ニ閏ヲ置ノ法尤モ簡易
 ニシテ、且既往將來ヲ推算スルニ甚ダ簡便ナリ

○那波那要曆埃及波 八一年三百六十五日ニシテ閏
 ナシ、以太利古曆ハ一年三百〇四日ニシテ一年ヲ十
 箇月ニ分ツ、其名ハ第一月今ノ第三二月今ノ四月三月今ノ五月
 四月今ノ六月五月今ノ七月六月今ノ八月七月今ノ九月八月今ノ十月九月今ノ十一月十月今ノ十二月
 十一月今ノ一月十二月今ノ二月年ト成ス、其後怒馬王之ニ五十六日ヲ加ヘ、一年ヲ三
 百六十日ト爲シ、第十一月今ノ第一第十二月今ノ第二ヲ
 設ク、其後儒畧該撒吾崇神天皇五始メテ太陽年ノ法
 ヲ定ム

○儒畧改曆太陽年 八前ノ第十一月ヲ歲首ト爲シ、第

登高自車下本

世

十月ヲ歲尾ト爲ス、七月ノ名ヲジュリ、八月ノ名ヲ
 オ、グストト改ム、則チ第一月一日、第二月一日、第三月一日、第四月一日、第五月一日、第六月一日、第七月一日、第八月一日、第九月一日、第十月一日、十一月一日、十二月一日、ニハ其第二月二日ヲ増ス、

○格勒哥里改曆 太陽年ハ儒略曆四年一閏ノ法ヲ用
 フル、久クシテ漸ク差ヲ生ズルニ因テ、法王格勒哥
 里第八世 吾天正十之ヲ改正ス、蓋シ古曆ハ巳二十日
 ノ差ヲ生ビシヲ以テ其年ノ十月五日ヲ改メテ十月

十五日ト爲シ、且後來閏ヲ置ノ法ヲ變スル、左ノ如
 シ、但シ四年毎ニ閏ヲ置ハ古曆ノ如シトイヘ、只第
 百年ニ當ル年ノミ其例ヲ變ズ、則チ

西曆一千七百年	吾元祿十三	閏年ナレ	平年ニ改ム
同 一千八百年	吾寛政十二	同上	
同 一千九百年		同上	
同 二千年		閏年ニシテ閏ヲ置ク	
同 二千百年		閏年ナレ	平年ニ改ム、次年皆之ニ倣フ
後來二千四百年		二千八百年等	皆閏ヲ置ク

荷蘭ヲテハ吾元祿中、此新曆ヲ採用シ、英吉利ニテハ
 吾寶曆二年ヨリ、此新曆ニ改ム、其他西洋諸邦方今悉
 ク此曆法ニ頼ル、但シ魯西亜ハ猶古曆ヲ用テ故ニ他
 邦ト十二日ノ差アリ、他邦ノ正月一日ハ魯西亜ノ十
 二月廿日ニ當リ、魯ノ正月一日ハ他邦ノ正月十三日
 ニ當ルナリ、

○法蘭西改曆 吾寛政年間ニ當リテ法國大ニ亂レ、
 國民其王ヲ弑シテ大ニ政法ヲ革メ、寛政五年ヲ以テ
 彼ノ紀元元年トナシ、其十二月ノ名ヲ改メ酒月二日
 秋ヲ以テ歳首トナス、則チ酒月二日西曆九月廿日霧月
 凍

月 雪月 雨月 風月 芽月 花月 草月 櫻月
 暑月 葉月ナリ、毎月三十日ニシテ餘日ノ五日或
 ハ六日ハ、之ヲ葉月ノ末ニ加フ、吾文化三年ニ彼ノ掌
 破崙帝此法ヲ廢シテ復タ格勒哥里曆ヲ用フ、
 ○猶太曆 大陰 毎年三百五十四日ニシテ、月ノ大小和
 漢ニ同ジ、第一月 大 二月 大 或 三月 小 或 四月 大
 五月 大 六月 閏年ハ大 潤月 閏ハ必ズ六月ニ於テス
 七月 大 八月 小 九月 小 十月 小 十一月 大 十二月 小
 此ノ如ク大小ヲ定ムルト雖、元旦二日
 水曜。金曜。ヲ避ル故ニ十二月及ビ正月ハ一日ヲ伸縮

スルコアリ、古ハ七月ヲ歲首ト爲シ六月ヲ歲尾ト爲ス、
 吾孝安天皇ノ時ニ西魯寄地曆ヲ用ヒシ以來ナリ
 古ノヲ歲首ト爲ス、其十九年ゴトニ七閏有ルハ、則
 チ第三第六第八第十一第十四第十七第十九年。是ナ
 リ
 ○回曆 亦太陽曆ナリト耳其及ビ 吾推古天皇三十年
 ヲ以テ其始トナス、毎年十二箇月、三百五十四日、
 百五十ナリ、太陽曆ヨリ短キ一十一日、其差數百年毎
 ニ三年有奇ノ差アリ、故ニ紀元ヨリ今年ニ至テ一千
 二百五十一年ナレバ、土取其ニテハ一千二百八十八

年ト稱ス、又印度諸島馬來民ノ用フル所ノ曆ハ、其法
 同クシテ紀元同ジカラズ、土取其ノ一千二百八十八
 年ハ、即チ印度ノ一千七百九十九年ニ當ルナリ、月ノ
 大小左ノ如シ

第一月 大	二月 小	三月 大	四月 小	五月 大
六月 小	七月 小	八月 小	九月 大	十月 小
十一月 大	十二月 小	閏年 大		

其閏法ハ、每三十年ニ十一閏ヲ置ク、閏年ニ當レバ十
 二月ヲ三十日トナスノミ

○地理畧説

地理畧説

吾人今日棲息スル所ノ地球ハ、全體平坦ニシテ且動
 カザル者ノ如ク見ユレト、其實ハ圓體ニシテ球ノ如
 ク、且自ラ旋轉レテ暫時モ静止セザルモノナリ、海濱
 ニ立テ遠洋ノ米船ヲ望ムニ、初ハ其帆檣ヲ見、次ニ其
 船身ヲ見、次第ニ全體ヲ見ルベシ、又月蝕ノ黒キ所ハ
 我地球ノ影ナルニ、其黑影必ず圓形ヲ爲ス、以テ地球
 ノ圓體ナルヲ知ルベシ、又今日日本ヨリ西ニ向テ航海
 シ、印度海ヲ驚セ、歐羅巴ヲ過ギ、米利堅ヲ越エ、大平洋
 ヲ經テ來ルルハ、又再ビ日本ニ歸着スベシ、是地球ノ
 圓體ナル確証ナリ、地球已ニ圓體ナレバ、各地皆地球ノ

ノ中心ヲ以テ下ト爲シ、我上トスル所ハ對蹠國ノ下
 トスル所ニシテ、上下左右ノ別ナク、皆地球中心ノ引
 カニ引レテ、万物悉ク地球ノ表面ニ附着スル者ナリ
 第百十一圖ヲ見テ知ルベシ、

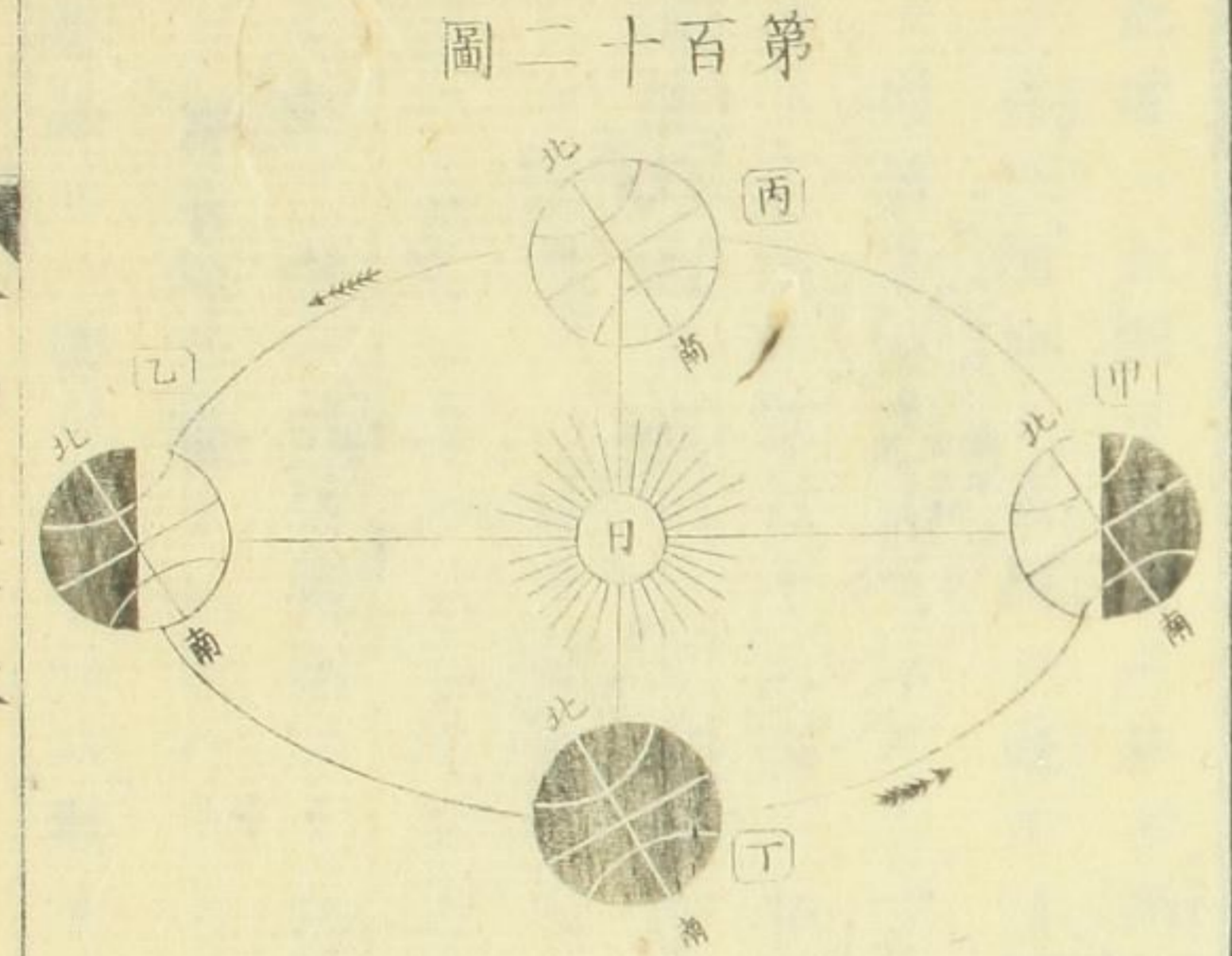
第百一十一圖



○地球ノ大サハ直徑三
 千二百四十三里、或ハ云
 二百四十四里、周圍一
 万〇百八十五里ナリ、
 二十四洋時ニシテ西ヨリ
 東ヘ一回旋轉シ、以テ晝
 夜ヲ爲ス

地球圖

之ヲ自轉ト云フ、自轉シツハ太陽ノ周邊ヲ公運スル
 一三百六十五日五時四十八分四十八秒時或云三百
 五十六分五十二レテ、其軌道ヲ一周ス、之ヲ一年ト爲
 七、乃チ一年間ニ地球自轉スル一、三百六十五回有餘
 ナリ、之ニ因テ晝夜ヲ爲シ、且四季寒暑ノ節ヲ爲ス、第
 百十二圖ノ如ク地球ハ兩極正立セズ、少レ偏歪シ、直
 線ニ差フ一二十三度半ニシテ斜ニ太陽ニ對スル者
 ナリ、地球甲ニ在ル片ハ北半球日光ヲ受ル一多ク南
 半球ハ日光ヲ受ル一寡シ、故ニ北半球ハ夏ニシテ南
 半球ハ冬ナリ、又乙ニ在ル片ハ之ニ反シ、北半球ハ冬



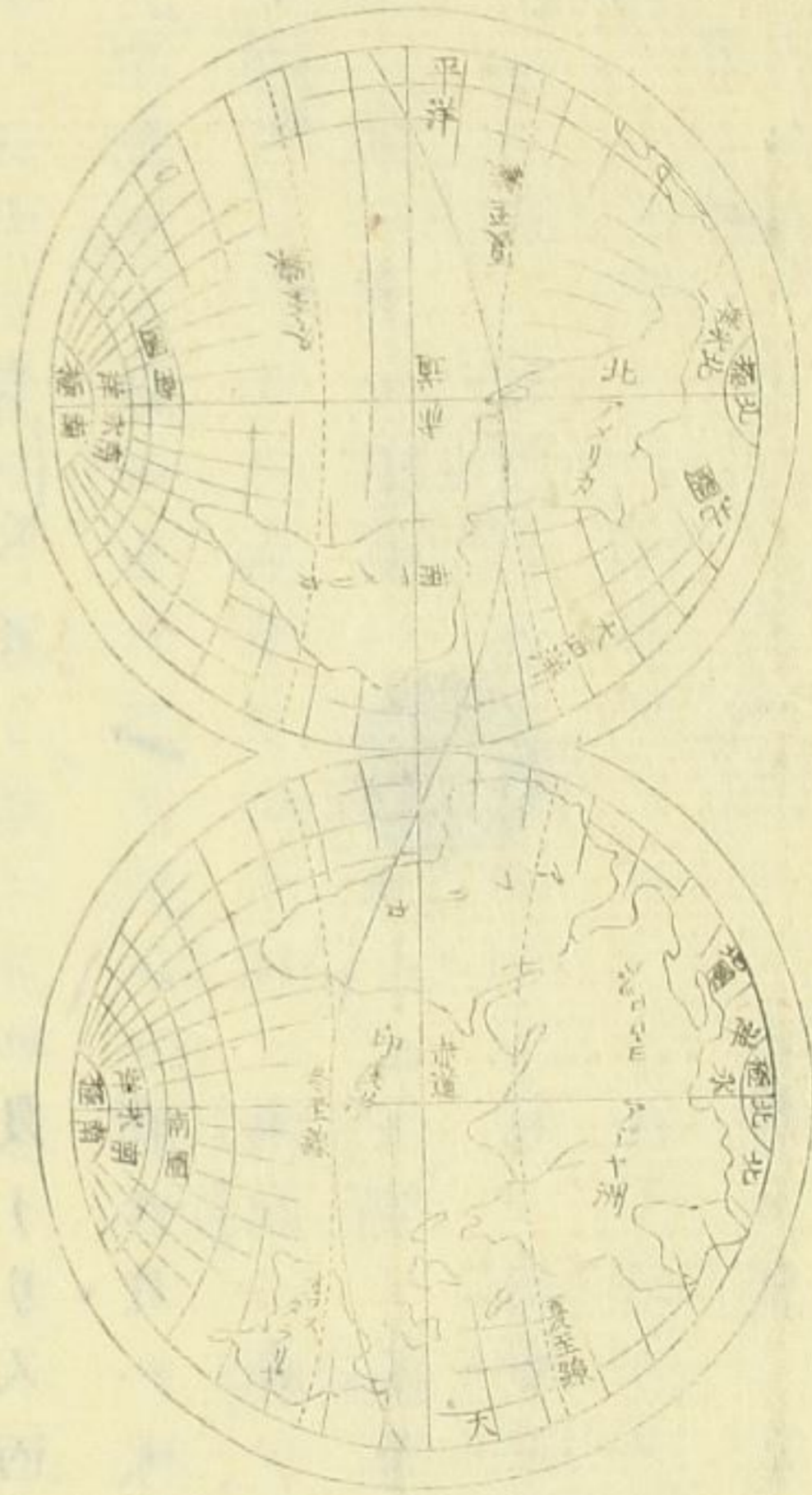
第百二十圖

ニシテ南半球ハ
 夏ナリ、又丙丁ニ
 在ル片ハ太陽赤
 道上ニ在テ晝夜
 長短ノ差ヒナレ
 之ヲ春秋二分ト
 爲ス、圖中ノ黒キ
 所ハ夜ニシテ白
 キ所ハ晝ナリ、

登瀛自轉本

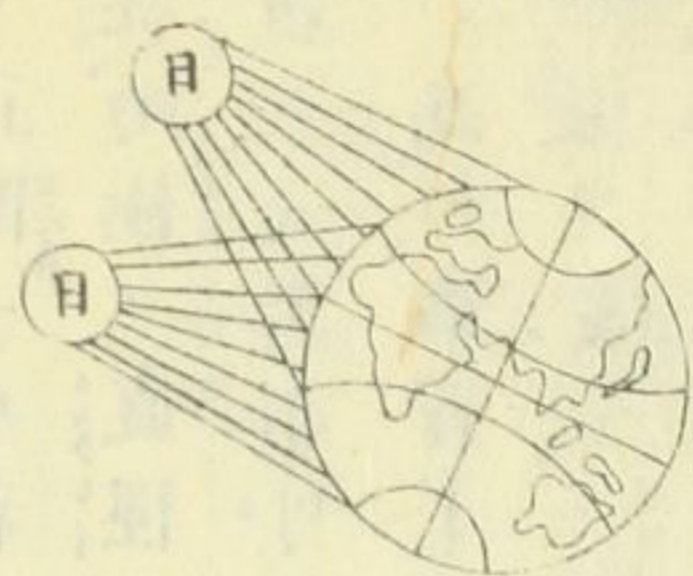
廿六

第百十三圖



○地球ハ正圓ナル者ニ非ズ、兩極稍々平區ニシテ赤道ノ直徑、兩極ノ直徑ニ過ル、僅ニ十里半ナリ、故ニ之ヲ圓體ト云テ亦可ナラン、今地球各處ノ位置ヲ見易カラシ爲ニ、第百十三圖ノ如ク假ニ其圓球ノ表面ニ經緯線ヲ畫シ、一目瞭然タラシム、先其北極ト南極トノ正中ニ一線ヲ橫畫シ之ヲ赤道ト名ク、赤道ヲ三百六十度ニ區分シ、一度毎ニ一線ヲ畫スレバ、三百六十線ヲ得ベシ、又南極ヨリ北極マテ、一線ヲ引キ赤道ト十字形ヲ爲サシメ、之ヲ又三百六十度ニ區分シ、一度毎ニ一線ヲ畫スレバ、則チ又三百六十線ヲ得ベシ、

第百四十四圖



此東西ニ引ル線ヲ緯線ト云ヒ、南北ニ引ル線ヲ經線ト云フ、又赤道ヨリ北二十三度半ノ處ニ一橫線ヲ畫シ、之ヲ北回歸線ト云フ、太陽此線ニ至リ夏至ヨリ又南へ歸ルナリ、又赤道ヨリ南二十三度半ノ處ニ一橫線ヲ畫シ、之ヲ南回歸線ト云フ、太陽此線ニ至リ冬至ヨリ又北へ歸ルナリ、又兩極ヨリ各二十三度半ノ處ニ二橫線ヲ畫シ、北極圈南極圈ト云フ、又二回歸線ノ間ニ斜ニ地

ヲ周ラシテ一斜線ヲ畫シ、之ヲ黃道ト云フ、黃道ハモト太陽周年ニ一回、虚空ヲ經歷スルノ行道ナルヲ、地球上ニモ亦其行道ト相對スル處ニ、一斜線ヲ引キテ、其名ヲ命セルナリ、黃道ト赤道ト相交ルニ點ヲ平分點ト云フ、太陽此點ニ正中スル時ハ、氣候暖和ニシテ晝夜長短ノ差ヒナシ、春秋二分是ナリ、赤道近傍ニ回歸線ノ間ニ在ル地方ハ、一年ニ再度太陽ノ直射ヲ受ケテ酷熱ナリ、故ニ之ヲ熱帶ト云フ、二回歸線ヨリ南北極圈ノ間ニ在ル地方ハ、溫度中和ナリ、故ニ之ヲ暖帶ト云フ、南北極圈内ノ兩地方ハ、太陽ノ光線ヲ受

登高自...
丹...

ル一甚グ斜メナレバ五寒ナリ故ニ之ヲ寒帶ト云フ
此兩國内ノ地方ハ晝夜長短ノ差ヒ甚ダ大ナリ右ノ
五地方ヲ地球ノ五帶ト云フ

○右ニ云ヘル如ク地球ハ太陽ニ從テ左旋スル遊星
ノ一種ニシテ第百十五圖ノ如ク其質岩石土質金屬
等層々ト相重リ集合シテ一塊ノ球形ヲ爲ス其地殼
ノ表面ハ未鉅ノ能ク入ル所ニシテ五穀草木ノ生育
スベキ層算ナリ其次ハ石灰層其次ハ石炭層其次ハ
屋石層ト層々相重リテ秩序ヲ乱ス一ナシ是ヲ成層
岩ト云フ而シテ其層ノ大ナル者ハ數十百里ニ連ル

第百五十圖



者アリ又層ヲ成サズレテ只塊々タル形状ヲ成ス者
アリ是ヲ不層岩ト云フ此等ノ諸層ヨリシテ種々ノ

礦類ヲ産ス則チ白金黃金銀銅鉄
錫亜鉛及ヒ金剛石水晶美玉寶石
ノ類又大理石石炭磁石燧石山鹽
其餘瓦磚陶器ヲ製造スベキ粘土
類ナリ

○地球ノ表面ハ都テ高低凹凸ニ
シテ其凹處ニ充滿セル者ハ海水
ナリ其水上ニ隆起セル者ハ陸地

登高自...

丹...

登高山自下本

丹形

ナリ、其大ナル者ヲ洲ト云ヒ、邦ト云ヒ、低キ者ハ平地
 ニシテ、高キ者ハ山ナリ、其小ナル者ヲ島嶼ト云フ、島
 嶼ハ即チ海底ニアル山嶺、纒ニ其頂ヲ水面上ニ露出
 セル者ナリ、陸地ノ高峻ナル者ヲ山ト云ヒ、群峯數百
 里或ハ千餘里ニ連ナル者ヲ山脉ト云フ、亞米利加洲
 ノ南端ヨリ北端ニ連ナル高山脈アリ、安得落機ノ如
 キ高山ハ、其山脉中ニ在リ、以太利ノ北ニアルペン山
 アリ、佛蘭斯ト是班牙トノ境ニピレニト山アリ、歐羅
 巴洲ト亞細亞洲トノ分限ニ烏拉山アリ、英倫ト蘇格
 蘭トノ境ニチヴヰツ山アリ、瑞典ト那威トノ間ニ

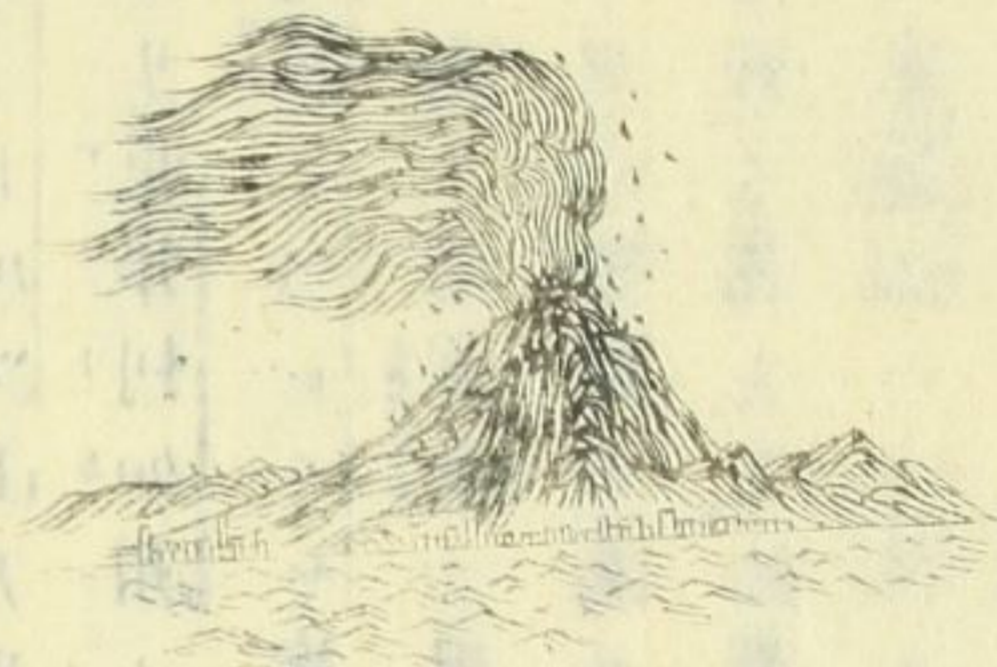
ドフラフイールツ山アリ、是皆山脉ナリ、又亞細亞洲
 ノ極東ヨリ亞弗利加洲ノ極南マテ山脉連綿セリ、阿
 爾泰喜馬拉アベシニヤ等ノ高山ハ此山脉中ニアリ、
 凡テ山ノ高キ者直立一里ニ過ル者ハ少シ、印度ノ喜
 馬拉ハ二里六町餘ノ高サナリ、米國ノ安得山ハ一里
 二十六町餘ノ高ナリ、此等ハ世畧第一ノ高山ナリト
 ス、支那ノ崑崙山ハ一里十四町餘、日本ノ富士山ハ一
 里三町餘ノ高サナリ、然ク高山アリトイハ、匠之ヲ地
 球ノ大ニ比スレバ、直徑四尺ノ圓球面ニ塵ニ二三釐
 ノ高凸アルガ如シ、又第百十六圖ノ如ク噴火山トテ

登高山自下本

四十一

山ノ頂上ヨリ火ヲ噴出スル者アリ世界中ニ其數凡
 ヲ二百餘モアリト云ヘリ吾邦信州ノ淺間山伊豆ノ

圖六十百第



大島山ノ如キ是ナリ○赤
 道直下ハ炎熱ノ地ナレド
 海面上一千四百餘丈ノ山
 巔ニハ雪アリ是上際ハ空
 氣稀薄ニシテ寒冷ナレバ
 ナリ赤道ノ南北各五十度
 ノ地ニテハ七百丈ノ山巔
 ニ雪アリ七十五度以上極

圈内ハ地上常ニ雪ヲ覆ヘリ又砂磧曠邈ノ瘠土ヲ砂
 漠ト云フ砂磧磧确ニシテ川澤ナク草木ヲ生セズ亞
 弗利加ノ内地ハ多シ砂漠ノ處多シ其他亞辣伯及ヒ
 支那ノ北部等ニ大砂漠有リ○地球ノ中心ニハ火氣
 アリテ常ニ熱シ地ノ表面ニ近クニ從ヒ火氣漸ク弱
 クナレド土中ハ常ニ温ナル者ユエ蛇墓ノ如キハ冬
 時ニ及デ土中ニ蟄シテ寒氣ヲ禦ク又地中ニハ伏道
 アリテ水泉流通シ或ハ火氣騰炎ス其伏道山上ニ通
 シテ炎烟ヲ蒸發スルハ即チ噴火山ニシテ水泉ヲ湧
 騰スルハ温泉ナリ又地中ニ火氣ノ有ル處ハ水泉滲

入シ、或ハ硫黃消石等ノ氣集マレバ、火氣暴卒ニ激發
シテ、大地ヲ蕩搖ス。此地地震ナリ、地ニ地震アルハ猶天
ニ雷アルガ如シ、即チ亦越歴ノ作用ナルヲ知ルベシ。
○河水ハ山嶽ノ溪澗ヨリ、消滴漸流スル者ニシテ、其
沿道ノ各地ニ溉灌シ、其田園ヲ滋潤シ、草木ヲ榮養シ
テ、以テ人畜ノ營生ニ供ス。蓋シ其邦ノ大ナル者ハ、其
河モ亦大ナリ、北米利堅ノ密失失必ハ其延流一千六
百四十餘里、南米利堅ノ亞馬孫ハ一千五百里、埃及ノ
尼羅ハ一千四百三十里、支那ノ揚子江ハ一千三百十
餘里、黄河ハ一千六百餘里、滿州ノ黑龍江ハ九百四十

餘里、印度ノ印度河ハ六百九十餘里ナリ、是等ノ世界
中ノ大河ナリトス。
○地球ノ廣袤ハ其表面平方積大約三千三百〇七万
九千四百方里餘ナリ、之ヲ海陸ノ二部ニ大別スレバ、
其陸地ノ表面ハ八百六十四万七千六百七十方里ニ
シテ、海面ハ二千四百四十三万七千七百方里餘ナリ、故
ニ海面ハ地球表面四分ノ三ニシテ、陸地ハ四分ノ一
ナリ、其邦國封疆ノ方向ヲ見易カラシムニ、第百十三
圖ノ如ク、地球ヲ二個ニ區分シ、東半球西半球ト爲
ス、其東半球ノ大陸ニハ、亞細亞、亞弗利加、歐羅巴等ノ

洲アリ、西半球ノ大陸ニハ、南北亜米利加洲アリ、又浩
斯特里ハ島嶼ノ絶大ナル者ニシテ、其疆界廣大ナル
ユエニ、近世之ヲ大洲ノ一ト爲シ、浩斯特里洲ト名ケ、
又其近傍ノ島嶼ヲ併セテ之ヲ阿西亜屈亞洲ト號ス、
南北亞米利加ヲ一大洲トナシ、全世界ヲ五大洲ニ分
テリ、

○海ノ大ナル者ヲ洋ト云フ、通常亦之ヲ五大洋ニ區
別セリ、其一ヲ大平洋ト云フ、亞細亞ト南北亞米利加
トノ間ニシテ、大洋中ノ最モ大ナル者ナリ、其二ヲ印
度洋ト云フ、西ハ亞弗利加、南ハ南極圈ヲ限り、東ハ浩

斯特里ニ際シテ、大平洋ニ連ル、其三ヲ大西洋ト云フ、
歐羅巴、亞弗利加ト亞米利加トノ間ナリ、其四ヲ北水
洋、其五ヲ南水洋ト云フ、此二洋ハ南北兩極圈ノ水海
ヲ云フナリ、而シテ洋ノ小ナル者ヲ海ト云フ、地中海、
北高海、白海、紅海、日本海ノ如キ是ナリ

○地球上何ノ地ニ於テモ、草木ヲ生育セザル處ナシ、
或ハ天然ニ長茂シ、或ハ人力ノ耕耘ニ因テ繁殖シ、以
テ人畜衣食ノ用ニ供ス、草木ノ繁茂スルハ、日光、温氣
及ビ水氣ノ力ニ頼レリ、太陽ハ常ニ草木ニ光線ト温
暖トヲ與ヘ、其水氣ヲ驅テ大氣中ニ蒸騰セシメ、之ヲ

變化レテ雲ト爲シ雨ト爲シテ、又地上ニ降ラシム、雨
ハ地ニ入テ草木ヲ養ヒ、或ハ沉ミテ泉水ト爲リ、流レ
テ江河ト爲リ、漚リテ湖海トナリ、又再ビ水蒸氣トナ
リテ大氣中ニ飄散ス、
○草木動物俱ニ皆其地ノ寒暖ニ隨テ異ナリ、今人熱
帶地方ノ高山ニ登ラバ、山麓酷熱ノ處ニハ熱帶ノ草
木ヲ生シ、山腹温暖ノ域ニハ溫帶ノ草木ヲ殖シ、山頂
寒烈ノ境ニハ極圈ノ苔藓ヲ育スルヲ見シ、是一山中
ニ全世界ノ氣候ヲ具シ、其物産ノ異リアルヲ示ス者
ナリ、海上ニ於テハ陸地ノ如キ、寒暖ノ變革アルコトナ

レ、但波濤平流ハ丈ノ黒瀬及ビ潮汐盈涸ノ景況ニ因
テ、少シク變アルノミ、海底ニモ亦陸地ノ如ク、動物ノ
リテ茲ニ住ミ、又草木アリテ茲ニ生ズ、然レモ海底極
メテ深クレバ、水ノ壓力甚シキヲ以テ草木動物俱ニ
生ズルコト能ハズ、猶陸地ノ高山ニ於ルガ如シ、
○赤道近傍炎熱ノ地方ハ、自然ニ果實多キユエ、人民
天然ノ食ヲ仰ギテ人カヲ勞セズ、衣服モ亦麁糲ナリ、
魚介虫類ノミヲ食トスル邦域アリ、又北極圈ニ近キ
烈寒ノ地方ニテハ、魚鳥海獸ノ類ヲ食シ、獸皮ヲ被リ
穴居シテ寒氣ヲ禦ゲリ、溫帶ノ地方ハ寒暑共ニ甚シ

カラズ、前ノ二地方ニ比スレバ、天幸ヲ得ルヲ多シト
 イヘ、砂漠ノ土地ニ於テハ、亦大概亦大獸畜ヲ牧シ、
 水草ヲ逐テ轉徙ス、其衍沃豊饒ナル土地ニ於テハ、人
 カラ勞役レ農功ヲ興シ、器械ヲ製シテ其産業ヲ勉勵
 スルユエ、人民次第ニ繁殖シ、邑里ヲ成シ邦都ヲ建ル
 ニ至ル、故ニ開化ノ進行スルハ最モ此地方ニアリ、
 ○全世界中其人民多シトイヘ、人種ノ大綱ヲ擧テ
 之ヲ五種ニ區別ス、其一ハ蒙古種ナリ、其形容頭顱稍
 方ニシテ鼻高カラズ、其色黄土色或ハ褐色ニシテ頭
 髮多クハ漆黒ナリ、支那、滿州、後印度ノ人民之ニ屬ス、

其二ハ高加索種ナリ、顱骨正圓ニテ前額直立シ鼻隆
 ク皮膚卵白色ナリ、頭髮多クハ褐色ニシテ、眼睛碧色
 ヲ帶ブ、歐羅巴ノ人民之ニ屬ス、其三ハ以日阿伯種
 ナリ、顱骨狹ク顱骨高ク、鼻低廣ニシテ口吻少シ、突出
 シ、肌膚漆黒ニテ頭髮三ナ捲縮ス、亞弗利加ノ土人之
 ニ屬ス、其四ハ馬來種ナリ、顱頂稍狹ク面廣ク、肌膚黃
 褐色ニテ頭髮多クシテ黒ク、蒙古種ニ似タリ、印度諸
 島ノ人民之ニ屬ス、其五ハ亞米利加種ナリ、骨格稍蒙
 古種ニ近ク、目陷リ鼻廣クシテ高ク、肌膚赤色ニテ銅
 ノ如ク、頭髮疎ニシテ黒シ、亞米利加土人之ニ屬ス、而

シテ其人口ノ負數ハ大畧亞細亞洲ハ六億五千二百
万人。歐羅巴ハ二億六千五百万人。亞弗利加ハ七千万
人。亞米利加ハ五千八百万人。阿西亞。亞。亞。ハ二千百万
人ナリ。

○人民ノ賢愚ハ千差万別ナリトイヘド、其性情狀態
ニ從テ之ヲ四等ニ分ツ、其一ハ野蠻ナリ。是人類ノ最
モ下等ニシテ、人倫ノ道ヲ知ラズ。知覺最モ開ケズ。唯
飲食媾合ノ二情ヲ知ルニ過ギズ。其二ハ未開ノ民ナ
リ。野蠻ニ比スレバ、知覺稍進ミ、獸畜ヲ牧養シテ共ニ
曠野ニ住ミ、又半ハ農業ヲ事トシ村落ヲ成セド、永住

スルニ非ズレテ屢轉徙ス。或ハ文字アリ或ハ文字ナ
ク、莫長アリテ其約束ニ服從スレド、多クハ殘忍ノ風
俗ナリ。其三ハ半開ノ民ナリ、農工商等ノ業共ニ行ハ
レ、技藝文字ヲ講習シ、品物ヲ製シ土産ヲ殖シ、他邦ト
貿易ヲ營ミ、禮義ヲ重ズルノ風習アリ、然レド習俗ニ
ナ古ヲ貴ミ今ヲ賤ミ、自國ヲ尊大ニシテ、他國ヲ勝視
シ、君主權威ヲ擁シ、國民政ニ參與スルヲ得ズ、人情
交際其陽ハ温厚ナレド、陰ニハ殘忍ナルヲ多シ、其四
ハ文明開化ノ民ナリ、農商百工ノ業盛ニシテ、學術技
藝ニ篤ク、四民其業ニ安ニス、四海方國盡ク友誼ヲ以

登高自卑下本

世七

テ汎ク交ルヲ好ミ、賢明篤學ノ者ヲ貴トシ、廉取ノ心
 饒ク法令明白ニシテ、刑罰極メテ寛ナリ
 ○各國ニテ各々ノ教法有テ、其人情風俗ヲ教化シ、政
 治ニ關カル所少ナカラズ、其一ハ耶蘇教ナリ、歐羅巴
 各國、亞米利加等ハ、大半此教ヲ導奉ス、其二ハ猶太教
 ナリ、是耶蘇教ヨリ古ク行ハレ、亞米利加、歐羅巴人往
 ヲ之ヲ奉スル者アリ、其三ハ回々教ナリ、都爾箇、亞辣
 伯、波斯等ニ多ク行ハル、其四ハ佛教及ビ偶像ヲ崇尊
 スル諸教ナリ、印度、支那、亞弗利加、亞美理格等ノ内地
 ニ行ハル、儒教、孔子ノ道ハ、只支那、日本人之ヲ遵奉セ

リ、

登高自卑下本畢

世七

